

◆ コメントファイル目次 ◆

初等教育学科(児童教育学科)				※受講した学生の所属学科・科と、ファイルにおける分類が異なる場合があります。			
講義コード	科目名	教員名(コメント入力者)	ページ	講義コード	科目名	教員名(コメント入力者)	ページ
2119	社会科教育法《対象:大3児教A》	中尾浩康	3	2211	卒業論文《対象:大4児教》	半澤嘉博	58
2120	社会科教育法《対象:大3児教B》	中尾浩康	4	2213	社会科教育演習《対象:大4児教》	中尾浩康	59
2121	理科教育法《対象:大3児教A》	関根正弘	5	2214	算数科教育演習《対象:大4児教》	石田淳一	60
2122	理科教育法《対象:大3児教B》	関根正弘	6	2216	学校図書館メディアの構成《対象:大4児教》	鶴巻景子	61
2123	生活科教育法《対象:大3児教A》	田村恵美	7	2217	学習指導と学校図書館《対象:大4児教》	鶴巻景子	62
2124	生活科教育法《対象:大3児教B》	田村恵美	8	2218	情報メディアの活用《対象:大4児教》	鶴巻景子	63
2125	算数科教育法《対象:大3児教A》	石田淳一	9	2220	理科教育演習《対象:大4児教》	関根正弘	64
2126	算数科教育法《対象:大3児教B》	石田淳一	10	2221	教職実践演習(幼・小)《対象:大4児教》	石田淳一	65
2143	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	今井夏子	11	2224	保育内容の指導法(健康)《対象:大4児教》	土橋久美子	66
2144	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	阿部藤子	12	2226	保育内容の指導法(環境)《対象:大4児教》	山田恵美	67
2145	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	天野美穂子	13	2227	保育内容の指導法(言葉)《対象:大4児教》	橋本千鶴	68
2146	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	石田淳一	14	3845	造形基礎Ⅱ《対象:大1初教A》	結城孝雄	69
2147	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	岩崎香織	15	3846	造形基礎Ⅱ《対象:大1初教B》	結城孝雄	70
2148	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	木村博人	16	3848	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	阿部藤子	71
2149	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	酒井藤恵	17	3849	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	天野美穂子	72
2150	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	関根正弘	18	3850	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	石田淳一	73
2151	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	田村恵美	19	3851	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	関根正弘	74
2152	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	中尾浩康	20	3852	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	田村恵美	75
2153	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	半澤嘉博	21	3853	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	半澤嘉博	76
2154	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	宮祐子	22	3854	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	山田恵美	77
2155	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	山田恵美	23	3855	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》	結城孝雄	78
2156	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	結城孝雄	24	3856	教育相談の理論と方法《対象:大1初教》	中村薫	79
2157	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	若井広太郎	25	3857	障害と教育《対象:大1初教》	若井広太郎	80
2158	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》	西野真由美	26	3858	国語科教育内容《対象:大1初教A》	阿部藤子	81
2159	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	今井夏子	27	3859	国語科教育内容《対象:大1初教B》	阿部藤子	82
2160	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	阿部藤子	28	3860	子どもの思考とプログラミング《対象:大1初教A》	天野美穂子	83
2161	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	石田淳一	29	3861	子どもの思考とプログラミング《対象:大1初教B》	天野美穂子	84
2162	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	関根正弘	30	3862	家庭科教育内容《対象:大1初教A前》	岩崎香織	85
2163	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	田村恵美	31	3863	家庭科教育内容《対象:大1初教A後》	岩崎香織	86
2164	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	中尾浩康	32	3864	家庭科教育内容《対象:大1初教B前》	岩崎香織	87
2165	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	半澤嘉博	33	3865	家庭科教育内容《対象:大1初教B後》	岩崎香織	88
2166	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	宮祐子	34	3868	音楽基礎Ⅱ《対象:大1初教A》	宮祐子	89
2167	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	結城孝雄	35	3869	音楽基礎Ⅱ《対象:大1初教B》	宮祐子	90
2168	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》	若井広太郎	36	3872	幼児と健康《対象:大1初教》	木村博人	91
2169	総合的な学習の時間の指導法《対象:大3児教》	田村恵美	37	3873	幼児と言葉《対象:大1初教》	橋本千鶴	92
2171	学級経営論《対象:大3児教》	半澤嘉博	38	3887	家庭科教育法《対象:大2初教A》	岩崎香織	93
2181	英語科指導法《対象:大3児教A》	酒井藤恵	39	3888	家庭科教育法《対象:大2初教B》	岩崎香織	94
2182	英語科指導法《対象:大3児教B》	田代葉子	40	3889	体育科教育法《対象:大2初教A》	今井夏子	95
2186	保育内容の指導法(表現B)《対象:大3児教A》	宮祐子	41	3890	体育科教育法《対象:大2初教B》	今井夏子	96
2187	保育内容の指導法(表現B)《対象:大3児教B》	宮祐子	42	3891	保育指導論《対象:大2初教》	山田恵美	97
2196	卒業論文《対象:大4児教》	今井夏子	43	3895	国語科教育法《対象:大2初教A》	阿部藤子	98
2197	卒業論文《対象:大4児教》	阿部藤子	44	3896	国語科教育法《対象:大2初教B》	阿部藤子	99
2198	卒業論文《対象:大4児教》	天野美穂子	45	3899	体育基礎実技Ⅱ《対象:大2初教A》	木村博人	100
2199	卒業論文《対象:大4児教》	石田淳一	46	3900	体育基礎実技Ⅱ《対象:大2初教B》	木村博人	101
2200	卒業論文《対象:大4児教》	岩崎香織	47	3902	生徒・進路指導論《対象:大2初教A》	二川正浩	102
2201	卒業論文《対象:大4児教》	木村博人	48	3903	生徒・進路指導論《対象:大2初教B》	二川正浩	103
2202	卒業論文《対象:大4児教》	酒井藤恵	49	3904	特別活動の指導法《対象:大2初教A》	鈴木邦夫	104
2203	卒業論文《対象:大4児教》	関根正弘	50	3905	特別活動の指導法《対象:大2初教B》	鈴木邦夫	105
2204	卒業論文《対象:大4児教》	田村恵美	51	3909	道徳教育法《対象:大2初教A前》	西野真由美	106
2205	卒業論文《対象:大4児教》	中尾浩康	52	3910	道徳教育法《対象:大2初教A後》	西野真由美	107
2206	卒業論文《対象:大4児教》	半澤嘉博	53	3911	道徳教育法《対象:大2初教B前》	西野真由美	108
2207	卒業論文《対象:大4児教》	宮祐子	54	3912	道徳教育法《対象:大2初教B後》	西野真由美	109
2208	卒業論文《対象:大4児教》	山田恵美	55	3916	幼児と表現A《対象:大2初教A》	結城孝雄	110
2209	卒業論文《対象:大4児教》	結城孝雄	56	3917	幼児と表現A《対象:大2初教B》	結城孝雄	111
2210	卒業論文《対象:大4児教》	若井広太郎	57	3918	幼児と表現B《対象:大2初教A》	宮祐子	112

初等教育学科(児童教育学科)

※受講した学生の所属学科・科と、ファイルにおける分類が異なる場合があります。

[illegible]

教員名	中尾浩康								
科目名	社会科教育法《対象:大3児教A》					履修者数	45	回答者数	31
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

1 社会科の基礎的な指導技術と教材研究の意義を理解することができる。(DP2・DP3) 2 社会科と他教科・総合的な学習の関連性を理解することができる。(DP2・DP3) 3 社会科の授業指導における指導計画の意義を理解し、諸計画と指導案(単元計画、本時案等)を作成することができる。(DP4・DP5・DP8) 4 全体的な授業プランを立て、実践することができる。(DP4・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		23人	実施形態(対面に一部メディア)		8人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	26.1%	F-15	担当教員に質問したか	50.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.9
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	25.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	37.5%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.1

教員コメント

授業づくり・模擬授業は、全体的によく頑張ってくれていました。評価・成績の差は、授業づくり・模擬授業自体よりも、むしろ各自の提出課題(毎回のリフレクション課題や理解度チェック[小テスト]等)で差がついていると思ってください。

教育現場ではアクティブ・ラーニングの授業が活況を呈していますが、「GW・会話しただけで、後でふりかえれる(見直せる)物が無い授業も多い」との指摘や、実社会では「若者の読む力・書く力が落ちている」との指摘もなされています。それらを意識し、リフレクション資料を活用したふりかえり・ミニレポートを大切にしましたが、辛く感じた人も少なくなかったかもしれませんね。リフレクション資料は、授業づくりはもちろん、社会科の学び直しや教員採用試験に向けての基礎的な勉強にもなるはずです。これら授業で配布した諸資料は、多忙な現場に入ってからでも、日々の授業づくりのヒント・参考になりますから、ぜひしっかりファイリング(保存)をしておいてください。

社会科は残念ながら、児童・教師を問わず「苦手」「難しい」「嫌い」が多い教科ですが、授業アンケートは予想以上に良く少しホッとしました。地域学習・地理・歴史・公民と分野が広く、世の中(社会)のありとあらゆることを教えなくてはならないので大変ですが、自らその都度調べ、考える姿勢を今後も続けていって欲しいと思います。できればぜひ、4年後期の「社会科教育演習」も受講して欲しいと思っています。

早め・早めの連絡や、詳しいめの解説・説明等、フィードバックも努力しましたが、至らない点もあったかと思っています。今後もより良い授業を目指し、模索・努力していきたいと思っています。

教員名	中尾浩康								
科目名	社会科教育法《対象:大3児教B》					履修者数	48	回答者数	38
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

1 社会科の基礎的な指導技術と教材研究の意義を理解することができる。(DP2・DP3) 2 社会科と他教科・総合的な学習の関連性を理解することができる。(DP2・DP3) 3 社会科の授業指導における指導計画の意義を理解し、諸計画と指導案(単元計画、本時案等)を作成することができる。(DP4・DP5・DP8) 4 全体的な授業プランを立て、実践することができる。(DP4・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		6人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	28.1%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.2
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	16.7%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	16.7%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

授業づくり・模擬授業は、全体的によく頑張ってくれていました。評価・成績の差は、授業づくり・模擬授業自体よりも、むしろ各自の提出課題(毎回のリフレクション課題や理解度チェック[小テスト]等)で差がついていると思ってください。

教育現場ではアクティブ・ラーニングの授業が活況を呈していますが、「GW・会話しただけで、後でふりかえれる(見直せる)物が無い授業も多い」との指摘や、実社会では「若者の読む力・書く力が落ちている」との指摘もなされています。それらを意識し、リフレクション資料を活用したふりかえり・ミニレポートを大切にしましたが、辛く感じた人も少なくなかったかもしれませんね。リフレクション資料は、授業づくりはもちろん、社会科の学び直しや教員採用試験に向けての基礎的な勉強にもなるはずです。これら授業で配布した諸資料は、多忙な現場に入ってからでも、日々の授業づくりのヒント・参考になりますから、ぜひしっかりファイリング(保存)をしておいてください。

社会科は残念ながら、児童・教師を問わず「苦手」「難しい」「嫌い」が多い教科ですが、授業アンケートは予想以上に良く少しホッとしました。地域学習・地理・歴史・公民と分野が広く、世の中(社会)のありとあらゆることを教えなくてはならないので大変ですが、自らその都度調べ、考える姿勢を今後も続けていって欲しいと思います。できればぜひ、4年後期の「社会科教育演習」も受講して欲しいと思っています。

早め・早めの連絡や、詳しいめの解説・説明等、フィードバックも努力しましたが、至らない点もあったかと思っています。今後もより良い授業を目指し、模索・努力していきたいと思っています。

教員名	関根正弘								
科目名	理科教育法≪対象:大3児教A≫					履修者数	45	回答者数	39
曜日	水	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

①小学校理科の各学年の目標や内容を理論と実践の両面から理解することができる。(DP1) ②単元のねらいに沿って学習指導案の作成と教材の選択・準備をすることができる。(DP4) ③作成した学習指導案で模擬授業を実施し、指導上の課題を明らかにすることができる。(DP5、DP8) ④小学校理科の指導における知識・技能等を身に付けることができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	53.8%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

解説の内容は学生の反応を見ながら理解度に合わせて伝えました。分かりやすかったというコメントが多く安心しました。対話的な学び、協働的な学びを意識して、まず個人で考えた後に自分の考えを基にグループで話し合うことを繰り返して行いました。模擬授業よりもその後の協議会での話し合いに学びが多くあるので互いに学び合う場面を保障しました。学生だけでは解決しなかったことや深まらなかったことに関しては私から解説をして疑問や分からないことを残さないように心がけました。本学科の学生が苦手とする理科の基本から応用まで取り入れたので、理科の授業を実施することへの抵抗がなくなりむしろ理科の楽しさを知り好きになったという学生も多くなりました。指導案の書き方についても指導したので全員が作成できるようになりました。他教科等でも生かせる内容も伝えたので4年次での教育実習でも自信をもってできると思いました。

教員名	関根正弘							
科目名	理科教育法≪対象:大3児教B≫				履修者数	48	回答者数	43
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

①小学校理科の各学年の目標や内容を理論と実践の両面から理解することができる。(DP1) ②単元のねらいに沿って学習指導案の作成と教材の選択・準備をすることができる。(DP4) ③作成した学習指導案で模擬授業を実施し、指導上の課題を明らかにすることができる。(DP5、DP8) ④小学校理科の指導における知識・技能等を身に付けることができる。(DP3)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		43人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	53.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

解説の内容は学生の反応を見ながら理解度に合わせて伝えました。分かりやすかったというコメントが多く安心しました。対話的な学び、協働的な学びを意識して、まず個人で考えた後に自分の考えを基にグループで話し合うことを繰り返しました。模擬授業よりもその後の協議会での話し合いに学びが多くあるので互いに学び合う場面を保障しました。学生だけでは解決しなかったことや深まらなかったことに関しては私から解説をして疑問や分からないことを残さないように心がけました。本学科の学生が苦手とする理科の基本から応用まで取り入れたので、理科の授業を実施することへの抵抗がなくなりむしろ理科の楽しさを知り好きになったという学生も多くなりました。指導案の書き方についても指導したので全員が作成できるようになりました。他教科等でも生かせる内容も伝えたので4年次での教育実習でも自信をもってできると思います。模擬授業は幼稚園実習の有無を考慮して学籍番号順に決めましたが、仲のよい仲間にならずに不満をもつ学生もいたようです。小学校現場でも企業でも仲間を選べずに協働しながら仕事をすることが多くあります。社会人になる準備として誰とでも一緒に作業ができるようになってもらいたいです。

教員名	田村恵美									
科目名	生活科教育法《対象:大3児教A》						履修者数	45	回答者数	33
曜日	月	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)小学校学習指導要領に基づき、生活科の目標・内容・方法について理解をしたうえで、生活科の授業を計画・実施・評価するための基礎的な知識や技能を身につけることができる。(DP1・DP3) (2)生活科の学習材(教材)研究をおこない、生活科の指導計画を作成することができる。(DP4・DP5・DP8) (3)模擬授業を通して、子どもの実態や地域の特性を踏まえた生活科の授業を実施することができる。(DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		18人	実施形態(対面に一部メディア)		13人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	38.9%	F-15	担当教員に質問したか	23.1%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.9
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		2人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	46.2%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	84.6%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	50.0%	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

アンケートへの回答をありがとうございました。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

この授業では、学生の多くが積極的に取り組んでおり、学習成果を実感できたことが分かります。特に、到達目標の達成度については「達成できた」または「ほぼ達成できた」との回答が100%であり、実践的な学びを通じてしっかりと理解が深まったことがわかります。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業の分かりやすさについては、「わかりやすかった」「まあわかりやすかった」と答えた学生が100%を占め、全体的に高評価でした。また、授業の工夫に関しても、「工夫されていた」「まあ工夫されていた」と答えた学生が約97%に達しており、講義だけでなく、模擬授業やグループワークなど、学生が主体的に学べる機会が多かったことが評価されています。特に、「ゲストティーチャーの話が面白かった」「実践的な学びで力が身についた」とのコメントが多く、講義だけでなく現場のリアルな声を取り入れた授業が、学生の学びに良い影響を与えたことがわかります。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述では、「模擬授業を通じて指導案の課題や自分の授業の反省点を見つけられた」「教材研究や実践を通して、生活科の授業だけでなく、他教科の指導にも活かせる視点を学べた」という意見があり、授業内容が教育実践につながるものであったことが分かります。また、「質問にも丁寧に答えてくれた」「授業のペースが良かった」というコメントもあり、学生が安心して学べる環境が提供されていたことも評価されています。

④ 次年度に向けた課題・改善案

今年度実施したゲストティーチャーの講義が好評だったため、ゲストスピーカーの活用を改善策としたいと思います。異なる立場や経験を持つ教育関係者を招くことで、より多様な視点から学ぶ機会を提供できるようにしたいと考えています。

教員名	田村恵美									
科目名	生活科教育法《対象:大3児教B》						履修者数	47	回答者数	30
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)小学校学習指導要領に基づき、生活科の目標・内容・方法について理解をしたうえで、生活科の授業を計画・実施・評価するための基礎的な知識や技能を身につけることができる。(DP1・DP3) (2)生活科の学習材(教材)研究をおこない、生活科の指導計画を作成することができる。(DP4・DP5・DP8) (3)模擬授業を通して、子どもの実態や地域の特性を踏まえた生活科の授業を実施することができる。(DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		21人	実施形態(対面に一部メディア)		6人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	38.1%	F-15	担当教員に質問したか	50.0%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		3人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	2.3	F-19	教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	66.7%	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

アンケートへの回答をありがとうございました。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

この授業では、多くの学生が積極的に学習に取り組んでいました。復習の時間は「1時間以内」が最多でしたが、「1～2時間」学習する学生も一定数おり、学びを深める努力が見られました。到達目標の達成度については、93%以上の学生が「達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答しており、授業を通じて十分な学習効果を得られたことが分かります。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業のわかりやすさについては、「わかりやすかった」「まあわかりやすかった」と回答した学生が100%であり、高い評価を受けています。また、授業の工夫についても90%以上の学生が「工夫されていた」「まあ工夫されていた」と評価しており、講義内容や進め方に工夫が凝らされていたことが伺えます。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述からは、模擬授業や協議会の充実度が高く評価されていることが分かります。「生活科の模擬授業を通じて、授業の進め方や教材の工夫を学べた」「他の人の意見を聞くことで新しい視点が得られた」といったコメントがあり、主体的に考え、学び合う場が提供されていたことが学修者にとって効果的だったようです。一方で、「課題やテストが重い」といった負担に関する声もありました。

④ 次年度に向けた課題・改善案

課題やテストが負担に感じる学生もいたため、課題の量や難易度を調整し、学習のバランスをとるようにしてゆきたいと思います。

全体として、授業は高評価を得ており、特に模擬授業やゲストスピーカーの活用が印象に残る授業だったことが分かりました。次年度は、負担を調整しつつ、より充実した学びを提供できるように努力したいと思います。

教員名	石田淳一							
科目名	算数科教育法《対象:大3児教A》				履修者数	45	回答者数	38
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

小学校算数科の目標、指導方法について理解を深め、算数科の授業を進める上での基本的な授業実践力を身に付けることができるようにするために、以下の到達目標を設定する。①算数の学習指導案を実際にかくことができる。(DP3) ②算数の学び合いの授業づくりの指導方法を理解することができる。(DP3) ③算数の授業を実演することができる。また授業を多角的に分析できる。(DP4・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		5人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	15.2%	F-15	担当教員に質問したか	40.0%
B-3	わかりやすさ	2.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.4
B-5	課題	3.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.4
B-6	シラバスとの合致	3.3	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	40.0%
B-7	満足度	3.2	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	2.8

教員コメント

教員名	石田淳一									
科目名	算数科教育法《対象:大3児教B》						履修者数	48	回答者数	42
曜日	水	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

小学校算数科の目標、指導方法について理解を深め、算数科の授業を進める上での基本的な授業実践力を身に付けることができるようにするために、以下の到達目標を設定する。①算数の学習指導案を実際にかくことができる。(DP3) ②算数の学び合いの授業づくりの指導方法を理解することができる。(DP3) ③算数の授業を実演することができる。また授業を多角的に分析できる。(DP4・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		3人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	15.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	3.7
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.2	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	66.7%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

教員名	今井夏子									
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》					履修者数	6	回答者数	4	
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。(DP4、DP5、DP6) (2) 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。(DP1、DP2、DP3) (3) 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。(DP4、DP5) (4) 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。(DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	阿部藤子									
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。(DP1・DP2・DP3) 2 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。(DP4) 3 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。(DP4・DP5・DP6) 4 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.5	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.5	D-9	担当教員に質問したか	83.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

担当になった回には事前の資料探しと読み込みなどの準備大が変だったかもしれませんが、皆さんよく取り組んでいたと思います。できるだけ学生同士の質疑や意見交換の時間を多くとりたいと思いましたが、レジュメを発表するだけになってしまうことも多く工夫していきたいと思います。

教員名	天野美穂子									
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》						履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2. 自分の関心のあ
る分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3. 研究テーマについて、
探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4. 研究テーマについての中間まとめの
小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	83.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

後期は、自身のテーマに関する研究計画書を作成し、それに基づいて中間まとめの小論文を作成するための指導を中心に行いました。自由記述には「初めて論文を沢山読んだ。情報モラルや情報リテラシー、プログラミングについて学ぶことができた。」「情報について知ることができた。すごく充実した時間を毎回過ごせることができた。」といったコメントが見られ、実際に学生たちの知識や、それに基づく思考力は高まっていったと感じています。また、授業内での発言・コメントも、回を重ねるごとに視点の幅が広がる等の成長がみられました。今後は、学生全員が自身のテーマに沿った論文の執筆をスムーズに行えるように支援し、研究の面白さも実感できるような指導を目指していきたいと考えます。

教員名	石田 淳一									
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》					履修者数	6	回答者数	6	
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

専門ゼミⅡは専門ゼミⅠで身に付けた基礎的な能力を基に、教職に関しての自分の関心のある分野の学習を通して、思考力・表現力を高め、4年生での卒業論文の執筆や教職実践に生かせる資質能力を養うことを目的とする。1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。(DP1・DP2・DP3) 2 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。(DP1・DP2・DP3・DP4・DP5) 3 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。(DP4・DP5・DP6) 4 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。(DP4・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	4.0	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	4.0	D-9	担当教員に質問したか	83.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	岩崎香織									
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫						履修者数	5	回答者数	3
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2 自分の関心のあ
る分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3 研究テーマについて、
探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4 研究テーマについての中間まとめの
小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.3	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.3	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.3	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、学生各自の研究関心に基づき、小学校家庭科の教材研究や模擬授業、卒業論文作成に向けての先行研究のレビュー、一部4年生の卒論ゼミと合同でゼミを行い、4年生の卒業研究として計画されたロイロノートスクールを用いた模擬授業に3年生が児童役として参加するなどの学習をすすめた。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値がいずれも3.33点であり、少人数ゼミということもあり、学生は主体的に授業に参加できた様子であった。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、最も評価が高かった項目は「小テストやレポートなど、授業内容に関する課題が出されたか」3.67点であり、次に「プレゼンテーション、グループワーク、意見交換など学生が参加する機会がありましたか」3.33点であった。他の項目の評価も3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.33点であり、学生の本授業に対し、ほどほどの満足を得たと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「藍染なども楽しかったです」「頑張ります」等のコメントがあった。

・次年度に向けた課題・その改善案

3年次後期の授業であるため、途中に幼稚園教育実習が含まれ、授業期間の途中から、授業を連続して欠席する学生もいたため、授業計画の通りに授業を進めることが難しかった。また、今年度のゼミ生については、卒業論文のテーマに家庭科教育を選択する学生がおらず、授業内容と学生のニーズが合っていなかったケースが多かったとも考えられる。次年度は、前期中に学生の卒論のテーマが固まるよう、専門ゼミナールⅠも含め、授業の進め方を再検討したい。

教員名	木村博人									
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。(DP4、DP5、DP6) (2) 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。(DP1、DP2、DP3) (3) 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。(DP4、DP5) (4) 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。(DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

卒論につなげるための専門ゼミです。
具体的には先行研究の確認、質問紙の作成、統計処理の実施などでした。
自宅での学習が足りなかったようです。4年生になってから巻き戻しましょう。

教員名	酒井藤恵						
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》				履修者数	6	回答者数
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部		
授業形態	演習			必修／選択	開講学科 初等教育学科(児童教育学科)		

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2 自分の関心のあ
る分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP4, DP5, DP6] 3 研究テーマについて、探究したこと
を説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述
できる。[DP4, DP5] 5 本ゼミの専門テーマである英語教育に関する内容を理解できる。[DP3, DP7, DP8]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	－	実施形態(すべて対面)		－人	実施形態(対面に一部メディア)		－人
A-2	復習をしたか	－	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	－
B-3	わかりやすさ	－	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	－
B-4	興味への工夫	－	実施形態(すべてメディア)		－人	F-17	指示の明確さ	－
B-5	課題	－	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	－
B-6	シラバスとの合致	－	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	－
B-7	満足度	－	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	－
C-8	達成度	－	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	－

教員コメント

教員名	関根正弘									
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。(DP1、DP2、DP3) 2 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。(DP1、DP2、DP3、DP4、DP5) 3 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。(DP4、DP5、DP6) 4 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。(DP4、DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	83.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

卒論作成に向けての準備を多く取り入れました。先行研究、実践授業の指導案作成、児童アンケート作成が終わったので、あとはそれぞれの内容をつなぎ合わせて論文に仕上げるのみです。アンケートは都内8校の協力を得て実施しました。3月末までにアンケートを実施してくれるので4年次の4月から卒論ゼミで集計内容を検討していくことになります。ゼミ内でそれぞれの研究内容について話し合うことをしてきましたので、一人で追究するのではなく6人で協働しながら研究を深めてきました。4年次では個人で研究していくことが多くなると思います。この研究方法は実際の小学校現場での教材研究の仕方と同じですので、4年次の教育実習に生かされると思います。小学校現場の理科の研究授業も多く参観してきましたので、卒論にも反映させてください。

教員名	田村恵美								
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫					履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] (2) 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] (3) 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] (4) 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.5	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.2	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

アンケートへの回答をありがとうございました。結果に対してコメントをいたします。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

この授業では、学生の学習への取り組みが比較的積極的であることが分かります。事前学習や復習にかけた時間については、「2時間以上」または「1から2時間」と回答した学生が多く、ほとんどの学生が一定の時間を学習に充てていることが伺えます。また、授業の到達目標に関しても、「達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答した学生が大半を占め、学習の成果が十分に得られていると考えられます。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業の説明の分かりやすさや工夫については、「とても分かりやすかった」「工夫されていた」と高く評価されています。また、授業内容がシラバスと合致していたかについても、ほとんどの学生が「合致していた」と回答しており、計画的かつ一貫性のある授業運営が行われていることが分かります。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述の内容から、「温かい学びの環境」「個別対応の手厚さ」「学生の意見の尊重」などが特に印象的なポイントとして挙げられています。学生は、授業を通じて専門的な知識を深めるだけでなく、ゼミという場を通じて主体的に学ぶ姿勢を育んだことが伺えます。また、「田村ゼミに入って良かった」との声もあり、学生にとって非常に満足度の高いゼミであったことが分かります。

④ 次年度に向けた課題・改善案

本授業は概ね高評価ですが、さらなる学びの充実を図るために学習時間の個人差への対応を改善したいと考えています。

学生の中には復習時間が「1時間以内」と回答しているケースもあり、学習時間に差があることが分かります。次年度は、復習を促すためのチェックテストやディスカッションの機会を増やすことで、学習の定着をさらに促進できるかもしれません。

教員名	中尾浩康									
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1 自分の関心のある分野、領域のことについて、明らかにしたいことを見つけることができる。[DP1, DP2, DP3] 2 関連する文献、論考の探し方を身につけ、それらを読み、自分の考えをもち表現することができる。[DP4, DP5, DP6] 3 研究方法についての理解を深め、自分の研究の方法を確定する見通しをもつことができる。[DP4, DP5, DP6]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.2	実施形態(すべて対面)	6人	実施形態(対面に一部メディア)	0人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9 担当教員に質問したか	33.3%	F-15 担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10 学生の参加	3.8	F-16 学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)	0人	F-17 指示の明確さ	-
B-5	課題	2.8	E-11 指示の明確さ	-	F-18 学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12 学修時間	-	F-19 教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13 教員への発言機会	-	F-20 学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14 学生どうしの意見交換	-	F-21 学修の効果	-

教員コメント

後期から実質的な研究発表(中間発表)が始まりました。まだ大きな差はありませんので、評価・成績はかなり甘めに付けました。皆さんの持っている資質・能力からすれば、まだまだ伸びるように感じています。

発表後の個々へのフィードバックや情報提供を、けっこう丁寧にやっているつもりですが、皆さん、それらの情報を生かしていますか。本や論文などの先行実践・先行研究から学べること、実地調査から得る発見・学びは多くあります。学生時代に力を入れて学んだことは、決して無駄にはなりません。

研究は、自ら課題を見つけ、調べ・考え、課題解決に向けて、自分自身でどんどん動いていかなくてはなりません。それは社会科を教える教師としても、とても大切な資質・能力に該当します。自らその都度調べ・考える姿勢こそが、日々の授業づくりをおこなっていく上でもとても重要になってきます。

4年生になると教育実習や採用試験もあり、大忙しです。とは言え、「ゼミ・研究は真剣勝負」であり、4年次の評価が(4年生なのだから)3年次(3年生)より甘くなることはありません。計画的に、早め・早めに、調査・分析や卒論作成に取り組んで行って欲しいと思います。

教員名	半澤嘉博									
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》					履修者数	6	回答者数	2	
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2 自分の関心のあ
る分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3 研究テーマについて、
探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4 研究テーマについての中間まとめの
小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.5	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

特別支援教育等の専門を深く学ぶことができたかと思います。自分の研究テーマをさらに深めて卒論につなげていってくだ
さい。

教員名	宮祐子								
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》					履修者数	7	回答者数	5
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2. 自分の関心のあ
る分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3. 研究テーマについて、
探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4. 研究テーマについての中間まとめの
小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	80.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	山田恵美							
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫				履修者数	3	回答者数	2
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	演習			必修／選択				

到達目標

1) 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1・DP2・DP3] 2) 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1・DP2・DP3・DP4・DP5] 3) 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4・DP5・DP6] 4) 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。[DP4・DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

今年は休学者などもいて人数が少なく、和気あいあいとはいきませんでしたが、その分毎回自分の進めてきた内容についてじっくり話せたと思います。発表者でない人は発言しづらかったように見えたので、進行については課題と受け止めています。
それでも例年に比べてテーマの決定も各々の進みも早く、それなりに充実していると感じていただけていたようで良かったです。

教員名	結城孝雄						
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》				履修者数	6	回答者数
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	演習		必修／選択		-		

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2 自分の関心のあ
る分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3 研究テーマについて、
探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4 研究テーマについての中間まとめの
小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	-	実施形態(すべて対面)		-人	実施形態(対面に一部メディア)		-人
A-2	復習をしたか	-	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	-	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	-	実施形態(すべてメディア)		-人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	-	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	-	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	-	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	-	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	若井広太郎									
科目名	専門ゼミナールⅡ ≪対象:大3児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	66.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

それぞれ関心のある研究テーマについて、関連論文の調査やまとめ、発表に前向きに取り組んでおられたと思います。またグループ研究の学会発表でも参加者の方々の的確な質疑応答ができていました。この経験を活かして、次年度の卒業研究を進めていただきたいと思います。

教員名	西野真由美									
科目名	専門ゼミナールⅡ《対象:大3児教》						履修者数	6	回答者数	3
曜日	火	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1) 先行研究の中で、重要なことや課題とされていることを捉えることができる。[DP1, DP2, DP3] 2) 自分の関心のある分野、領域の中で、明らかにしたいことを絞ることができる。[DP1, DP2, DP3, DP4, DP5] 3) 研究テーマについて、探究したことを説明し、理解しながら論理的に議論できる。[DP4, DP5, DP6] 4) 研究テーマについての中間まとめの小論文を記述できる。[DP4, DP5]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	2.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	2.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業の進め方について厳しい意見をいただきました。貴重な意見を出してくださったことで次年度の改善点を検討することができました。ご指摘の一つに、報告に対する時間配分が不平等だった、とありました。授業では6名全員に報告していただきましたが、前半の報告に時間をとってしまい、最後の方が時間不足になってしまいました。そのため、毎回、報告の順番を変えていたのですが、ご報告に対しては、毎回しっかりと時間を取ってコメントする必要があるとあらためて確認しました。できるだけ有意義なコメントをしていきたいと思っておりますので、来年度は毎回全員に報告いただくのではなく、担当者を決めて十分な検討時間を確保するようにします。また、私のコメントに対する不信感を持たれてしまったのは大変残念です。実際に学習意欲を失いかけていらっしゃるの、申し訳なく責任を感じています。指導の際にはもちろん、皆さんの卒論を充実していきたいという思いで取り組んでいます。基本的に皆さんの関心あるテーマを支援する方針ですが、関心分野を広げすぎると焦点が定まらなくなって論文をまとめられません。自由記述で引用されている私の発言「これは調べても意味がない」というのは、論文タイトルと要約から判断して、「この方向で調べても成果を得るのは難しいので、調べる範囲を広げすぎないように」、という意図のコメントでした。その意図をもっと丁寧に説明すべきでした。もう一点、「否定的なコメントが多い」というご意見は、皆さんが論文を読んで先行研究を把握する上で今後ぜひ取り組んでいただきたい点に関わっています。論文を自分の卒論の先行研究として読む場合、その論文の内容を理解するだけでなく、とどまらず、「批判的な読み」が求められます。これは報告者を否定しているものではありません。論文の内容への批判的な検討と一緒に取り組んでいただき、自分らしい問題意識を育てていきましょう。

教員名	今井夏子									
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》						履修者数	9	回答者数	9
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	阿部藤子									
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》						履修者数	10	回答者数	10
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.3	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		3人
A-2	復習をしたか	3.1	D-9	担当教員に質問したか	85.7%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

皆さんが真剣に授業づくりに向かっていることが強く伝わってきました。
授業についての話し合いもいろいろな角度から積極的に発言があり深まっていたと思います。
また再チャレンジも初めての試みでしたが、改善したい点に焦点化して工夫していることが伝わってきました。すべての回が充実し皆さんの力になっていたと思います。

教員名	石田淳一								
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》					履修者数	10	回答者数	9
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	関根正弘								
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》					履修者数	9	回答者数	8
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		8人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	75.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

模擬授業の前に事前授業を15分だけ実施しました。本来なら45分行い、改善していくことを現場でも行っています。改善授業は45分できました。それぞれ事前授業で課題として見えてきたものを改善して現場でも通用するような授業を実践することができました。理科が6人、算数が2人と少し偏った教科になりましたが、どの教科でも共通するものがあることを理解できたようです。一人で授業を考え、指導案を作成し、教材・教具を準備する経験ができてよかったです。4年次の教育実習で十分に生かせる学びを得たことと思います。自信をもって臨んでください。

教員名	田村恵美									
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》						履修者数	9	回答者数	9
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.2	D-9	担当教員に質問したか	66.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

アンケートへの回答をありがとうございました。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

この授業では、多くの学生が積極的に取り組んでいたことが分かります。事前学習や復習の時間については、「1～2時間」と回答した学生が最も多く、全体の約67%を占めていました。また、「2時間以上」と答えた学生も一定数おり、授業への意識が高かったことが伺えます。授業の到達目標についても、100%の学生が「達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答しており、学習の成果がしっかりと得られた授業であったようです。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業のわかりやすさについては、「わかりやすかった」と評価した学生が88.9%と非常に高い割合を占めています。また、授業の工夫についても、「工夫されていた」との回答が同じく88.9%で、学生が主体的に学べるような工夫が凝らされていたことが評価されていたようです。特に、模擬授業や実践的な学びの機会が多く設けられていたことが、学びを深める要因となったと考えられます。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述からは、「全ての授業の中で、1番将来の職業のためになる授業だった」「模擬授業を通して多くのことを学べた」といったコメントが目立ちました。また、「模擬授業の相談を親身に聞いてもらえた」「アドバイスがもらえて勉強になった」という意見もあり、教員のサポートが手厚く、学生が安心して授業に取り組める環境が整えられていたことが良かったようです。

④ 次年度に向けた課題・改善案

「授業づくりに真剣に向き合えた」という声がある一方で、さまざまなスタイルの授業を体験できる機会があれば、より柔軟な指導力が身につくと考えられます。次年度は、多様な授業設計にも挑戦する機会を増やすことで、より実践的な学びが深まるようにしたいと思います。

教員名	中尾浩康						
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》				履修者数	10	回答者数
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	演習		必修／選択		8		

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		8人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	25.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

実際の小学校の授業観察(金沢小)、また、一人で45分間の模擬授業をつくり・実践してみる経験は、とても良い学びになったことが感じられました。また今年度は4年生の先輩達がアドバイザーとして入ってくださり、より実践的なアドバイス・コメントも頂けました。

担当した人たちは全体的に真面目な人が多く、模擬授業もよく頑張ってくれていました。教師は、普段からコツコツ努力する姿勢こそが、何より大切になります。例えば、同時に何種類もの授業をこなし、生徒指導・部活・保護者対応等、教育現場に入ると毎日目の回るような忙しさになります。この学生時代の内に、コツコツと少しでも多くの勉強と経験を積んでほしいと思います。

私も皆さんの質問や要望に応えられるよう、更に努力をしたいと思っています。皆さんも理想の教師像に近づけるように、これからも頑張ってください。

教員名	半澤嘉博									
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》						履修者数	9	回答者数	5
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.4	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	20.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

実践的な授業作りを学ぶことができたかと思います。自分の魅力を最大限活かした授業の工夫をして、子ども達を引きつけていってください。

教員名	宮祐子						
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》				履修者数	9	回答者数
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	演習		必修／選択		4		

到達目標

1) 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2) 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3) 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	結城孝雄									
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》						履修者数	9	回答者数	2
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 小学校の授業を観察し、授業デザインに必要な観点・技術を学ぶことができる。(DP4) 2. 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点を学び、授業力を高めることができる。(DP4・DP5・DP6・DP8) 3. 他の学生との検討を通して、自分の授業観・教師像をみがくことができる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

自分の授業に創意工夫を凝らしながら授業案を作り、質の高い模擬授業を展開できていました。また他の人の授業にも的確に助言を入れながら、みんなで「良い授業」を創る雰囲気の中で毎回の授業が進んで行ったように思います。みなさんが考えた授業の意図・目的が明確になっているので、私の方もさらに質の高い授業にするためのアドバイスが明確にすることができました。授業作りが面白い！と感じるようになれば、もう一人前の先生です！！

来年の教育実習では、楽しい授業を展開して下さい。

教員名	若井広太郎								
科目名	授業実践演習Ⅱ《対象:大3児教》					履修者数	9	回答者数	8
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

4年間の大学や教育実習など学校現場での学びを振り返り、幼稚園教員や小学校教員としての最低限必要な知識・技能を身に付けることができる。((DP4・DP5・DP6・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		8人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	25.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

みなさん、2回の模擬授業と協議会に真摯に取り組んでいたと感じました。特に協議会では、建設的な意見やアイデアがたくさん出され、私自身も多くの気づきや学びがありました。今回の授業づくりと協議会の経験を、教育実習でも活かしていただきたいと思います。

教員名	田村恵美									
科目名	総合的な学習の時間の指導法<<対象:大3児教>>						履修者数	94	回答者数	8
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)「総合的な学習の時間」の歴史的変遷を知り、その重層性を理解できる。(2)「総合的な学習の時間」の意義について、現代的な教育課題を踏まえたうえで説明することができる。(3)「総合的な学習の時間」と教科等との関連させることを企図しながら、横断的・総合的なカリキュラム編成を行うために、具体的な実践のイメージを持ち、そのための知識と技能を身に付けたうえで授業を計画できる。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	—	F-15	担当教員に質問したか	—
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	—	F-16	学生の参加	—
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		8人	F-17	指示の明確さ	—
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.6	F-18	学修時間	—
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	3.5	F-19	教員への発言機会	—
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	12.5%	F-20	学生どうしの意見交換	—
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	75.0%	F-21	学修の効果	—

教員コメント

アンケートへの回答をありがとうございました。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

この授業では、多くの学生が積極的に学習に取り組んでいました。事前学習や復習の時間については、「1時間以内」と回答した学生が最も多かったものの、「1～2時間」または「2時間以上」学習した学生も一定数おり、学びを深める努力が見られました。授業の到達目標については、全員が「達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答しており、学習成果が十分に得られたことが分かりました。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業のわかりやすさについては、「わかりやすかった」「まあわかりやすかった」と回答した学生が87.5%を占め、全体的に高評価でした。また、授業の工夫に関しても、「工夫されていた」「まあ工夫されていた」との回答が約87.5%に達しており、オンデマンド授業でありながらも学びやすい環境が整えられていたことが分かります。「段階的に最終レポートを仕上げていく構成がわかりやすかった」「オンデマンドでも学生同士の意見交換の機会があった」といった意見があり、学習の進め方を工夫をしたことが学修者にとって効果的だったようです。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述では、「総合のイメージを掴めた」「指導案作成を通じて多くの学びが得られた」といった意見があり、学びが実践的であったことが評価されています。また、「オンデマンドで効率的に学べた」との声もあり、オンライン授業の利点が活かされた授業だったと感じてもらえたようです。

④ 次年度に向けた課題・改善案

課題の量が多かった(しかし楽しかった)との意見があったため、学習の負担を再検討してゆきたいと思います。

教員名	半澤嘉博									
科目名	学級経営論《対象:大3児教》						履修者数	42	回答者数	23
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1 学校経営の範囲と年間の主な取り組みの概要を知る。(DP1 DP2) 2 学級経営の様々な課題に対して的確に対応していく資質や能力を身につける。(DP4) 3 事例を通して、学級経営上の様々な課題を知り、実践的な対応ができる資質や能力を身に付ける。(DP6 DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		13人	実施形態(対面に一部メディア)		10人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	46.2%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	10.0%
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	60.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.6

教員コメント

学級経営の様々な課題を知ることができ、児童理解を基盤とした学級経営の楽しさ、難しさを学んだことと思います。

教員名	酒井藤恵									
科目名	英語科指導法《対象:大3児教A》						履修者数	45	回答者数	35
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)小学校外国語活動、および、教科としての外国語に関する背景知識を有し、その指導法に関する知識や指導技術を身に付ける。[DP3] (2)主要な第二言語習得理論から、児童期の指導に相応しい教授法の特徴を知ることができる。[DP5] (3)外国語活動・外国語科の指導実践に必要な指導技術を身に付けることができる。ICTなどの情報機器の様々な活用法を体験し理解する。また評価に関して理解ができる。[DP6, 8]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		34人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	17.6%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	2.7	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	2.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	2.0
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.0
B-6	シラバスとの合致	2.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	2.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	2.0

教員コメント

教員名	田代葉子							
科目名	英語科指導法《対象:大3児教B》				履修者数	48	回答者数	38
曜日	水	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

(1)小学校での英語の授業をするための知識・技能を活用し、小学校での授業が実践できる。(DP4) (2)自分の教育活動を省察し、課題解決に向けて探求し、向上を図ることができる。(DP5) (3)クラスメートと協力して、教材を理解しよりよい授業をする方法を考える。(DP6, 7, 8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		38人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.7	D-9	担当教員に質問したか	13.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	2.9	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	2.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	2.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業は小学校英語を子供たちがどうやったら楽しく取り組んで身につけることができるかというのが主眼の講義です。

Simon says、ステレオゲーム、どんじゃんけんなど授業でやった活動を皆さんの何人かがすっかりマスターしてクラスメートたちを楽しくのせながら実践できている様子に今後の小学校での授業が想像出来て期待が持てて頼もしかったです。

指導案を書くのはまず教材研究をしてからだと思います。そのあたりが十分でなかったと感じた方々はぜひ4年生の英語科教育実習でのdemonstrationで力を発揮して頂ければと思います。ただ小学校では3、4年生の一部を除いてほとんど英語の専科の先生が授業する学校が増えてきていますので、実習校の実情を早めにチェックしてみてください。Classroom Englishをしっかりと使えるようにするというのが目標でしたが、そこが簡単だと感じていた学生はぜひ16号館2階のGECの昼休みの英会話など利用してさらに英語力を伸ばしていただければと思います。3年生では中学校実習に向けてはほんの少ししか扱っていないので、4年生の教育実習で準備して頂ければと思います。

ゲームの説明などで言葉足らず部分があったのは申し訳なかったと思います。来年度以降はもうちょっと説明するようにしたいと思います。

教員名	宮祐子／西海聡子								
科目名	保育内容の指導法(表現B)《対象:大3児教A》					履修者数	32	回答者数	29
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。(DP2・DP3)
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な幼児の音楽表現活動の指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付け、模範的に保育を実践することができる。(DP4・DP5)?

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		3人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	26.9%	F-15	担当教員に質問したか	66.7%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	33.3%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	33.3%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

本科目は2名の教員によるオムニバス授業で、幼稚園教諭取得のための必修科目の一つである。

学生の取り組み状況は、予習や復習の時間はそれほど多くなく、1時間以内が約半数を占める。ほとんどしなかったという学生も2割近い現状である。

教員の指導内容については、概ね肯定的な意見であった。「満足」と回答した学生は7割程度、「やや満足」を入れれば全員が満足してくれたようだ。

幼稚園教育実習を間に挟む形になるが、「幼稚園実習にとっても役に立った」「楽しく学ぶことができ、幼稚園実習も無事乗り越えることができた」といった、実習に役立つ実践的な内容が喜ばれたようだ。後半の楽器を使ったり絵本に音や音楽を付ける活動も含めて「ペアで指導案を作ったり、グループで絵本の楽器演奏をしたりして楽しかった」といった肯定的な意見が多かった。

一方で、「実習中にレポートが出て、すごく負担だった」という意見もあったが、これは授業回数分の内容を担保するために必要な措置であり、他の多くの授業でも同じだと思うので、実習で大変なことは重々承知だが、実習に関連する内容のレポートでもあるので、頑張ってもらいたいところである。次年度は、提出期限にもう少しゆとりをもたせるよう、改善する。

教員名	宮祐子／西海聡子								
科目名	保育内容の指導法(表現B)《対象:大3児教B》					履修者数	28	回答者数	24
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。(DP2・DP3)
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な幼児の音楽表現活動の指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付け、模範的に保育を実践することができる。(DP4・DP5)?

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		24人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	37.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

本科目は2名の教員によるオムニバス授業で、幼稚園教諭取得のための必修科目の一つである。

学生の取り組み状況は、予習や復習の時間はそれほど多くなく、1時間以内が約半数を占める。ほとんどしなかったという学生も3割近い現状である。

教員の指導内容については、概ね肯定的な意見だった。満足度では7割以上が「満足」と回答し、「やや満足」を入れると、ほとんどの学生が満足してくれたようだ。

授業は幼稚園教育実習を途中で挟む形になるが、「実際に現場で使えるようなことを経験することが出来て、為になる授業活動ばかりで楽しかった」といった、実習や現場で役立つ実践的な内容が喜ばれたようだ。後半の楽器を使ったり絵本に音や音楽を付ける活動も含めて「模擬保育や絵本に効果音をつけて発表など、自分で考えて成果を発表する機会が沢山あり勉強になった」といった肯定的な意見が多かった。

一方で、「実習中の欠席課題の提出期限が実習後すぐで少し時間が取れなかったのが残念」という意見があったので、次年度は、提出期限にもう少しゆとりをもたせるよう、改善する。

教員名	今井夏子							
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫				履修者数	5	回答者数	-
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	実験実習実技			必修／選択				

到達目標

1. 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3]
2. 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5]
3. 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7]
4. 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	-	実施形態(すべて対面)		-人	実施形態(対面に一部メディア)		-人
A-2	復習をしたか	-	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	-	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	-	実施形態(すべてメディア)		-人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	-	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	-	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	-	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	-	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	阿部 藤子								
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫					履修者数	6	回答者数	6
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5] 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.3	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	3.3	D-9	担当教員に質問したか	75.0%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

文献からの考察が主になり研究方法が限られていたものの、皆さんよく頑張って自分のテーマに取り組んでいたと思います。ほかの人の研究にコメントする姿が徐々に出てきたのは嬉しいことでした。教員はしゃべりすぎない方がいいようです。

教員名	天野美穂子									
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	実験実習実技			必修／選択						

到達目標

1. 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3]
2. 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5]
3. 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7]
4. 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.7	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	3.7	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

卒論ゼミナールでは、「自分で考える」を実践する指導を行っていたため、学生にとっては苦しい時期もあっただろうと推察します。しかしながら、受講生は全員精一杯努力をし、毎回真面目に取り組んでいました。こうした取り組み態度は、アンケートの「授業の到達目標の達成度」や「授業満足度」の高さにも反映されていると思われます。自由記述には「自身で卒業論文と発表のクオリティに自画自賛しています！卒業論文の制作は大変でしたが、毎回とても楽しかったです。」といった自身の卒業論文に満足している様子も見られ、少なからず手応えを感じることもできました。

一方で、計画的に論文執筆を進めるよう指導するという点ではまだ力不足であるとも感じたため、今後は全員が余裕を持って卒業論文を仕上げられるよう、より一層努力していきたいと考えます。

教員名	石田淳一						
科目名	卒業論文《対象:大4児教》				履修者数	6	回答者数
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	実験実習実技			必修/選択			

到達目標

児童教育学科における学びの集大成として、以下の到達目標を掲げる。①自らの問題意識および先行研究をふまえて、研究課題を設定している。(DP1・DP2・DP3) ②研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。(DP1・DP2・DP3・DP5) ③研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。(DP5・DP6・DP7) ④研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。(DP5・DP6・DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	-	実施形態(すべて対面)		-人	実施形態(対面に一部メディア)		-人
A-2	復習をしたか	-	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	-	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	-	実施形態(すべてメディア)		-人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	-	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	-	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	-	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	-	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	岩崎香織									
科目名	卒業論文《対象:大4児教》					履修者数	6	回答者数	5	
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	実験実習実技			必修／選択						

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5] 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.8	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.8	D-9	担当教員に質問したか	80.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

今年度の卒業論文は、統計分析ソフトHADやロイロノートスクール等のICTを活用し、卒論作成をすすめた。授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値がいずれも3.80点であり、少人数ゼミということもあり、学生は主体的に授業に参加できていた。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、最も評価が高かった項目は「授業への満足度」4.00点であり、他の項目の評価も3.20点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.60点であり、学生の本授業に対し、満足感を得たと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「普段でも話しやすく、楽しいゼミ」「テーマから自分で考えて、卒業の為に進めていくのは大変だったけれど、学生と先生にサポートされながら進めることができました」「完成までゼミナールのみんなや先生に支えられて頑張ることができた」等のコメントがあった。

今年度は、卒論ゼミの対面授業回数が例年以上に多く(学生の希望)、ゼミ内で共に学ぶ姿がみられ、卒論の分析方法等に新しいICTツールを取り入れ、指導教員自身も手探りで学びながらの卒論指導となったが、ゼミ生同士の関係性がよく、分からない部分を助け合っていたので、大変心強かった。

・次年度に向けた課題・その改善案

今年度は、担当教員と指導学生の研究関心がかなり一致し、卒業論文の質を高めることが出来た。しかし、ゼミ生同士の関係性については、個々の人間関係能力によるところが大きく、どの学生がゼミ配属となっても一定以上の卒論指導を行う技術が担当者に身に付いているかといえ、今後も試行錯誤が必須である。3年生のうちに卒論がある程度進むよう、専門ゼミナールも含め検討したい。

教員名	木村博人									
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫						履修者数	6	回答者数	6
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	実験実習実技			必修／選択						

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5]
3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.8	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	83.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

アンケート結果を客観的かつ論理的に解釈することが難しかったかもしれません。
ただ、慣れていないだけかもしれませんが、これからの実社会では通常に行う思考方法です。
その一端に触れることができればよかったと思います。

教員名	酒井藤恵								
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫					履修者数	6	回答者数	3
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定することができる。[DP1、2、3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組むことができる。[DP5] 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至ることができる。[DP6] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答することができる。[DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.3	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	3.3	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	3.0	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

教員名	関根正弘								
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫					履修者数	6	回答者数	5
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定することができる。(DP1、DP2、DP3) 2 研究課題に適した方法を見だし、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組むことができる。(DP1、DP2、DP3、DP5) 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至ることができる。(DP5、DP6、DP7) 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答することができる。(DP5、DP6、DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	80.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

それぞれ内容の濃い研究ができて卒論にまとめることができました。発表会も聞き手を意識したプレゼンテーションを作成し、分かりやすく伝えることができました。理科ゼミの3年生や2年生も全員が発表会に参加し、先輩の卒論に感心したり自分の研究の方向性を確かなものにしたりすることができました。卒論での研究は現場に出た際の教材研究と同じだということが教育実習を経験して分かったと思います。どの教科でも同じように教材研究をしっかりと、子供たちに「分かった、できた」と思えるような楽しい授業を提供していきましょう。卒論で深めた単元内容もこれで終わりではなく引き続き現場の子供たちの反応を見ながらさらによく改善をして授業研究を続けてください。皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

教員名	田村恵美								
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫					履修者数	6	回答者数	3
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

(1) 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] (2) 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5] (3) 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] (4) 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.7	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	0.0%
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

アンケートへの回答をありがとうございました。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

この授業では、学生が積極的に研究に取り組んでいたことが伺えます。事前学習や復習の時間については、「2時間以上」「1～2時間」と回答した学生が多く、ゼミの時間外にも研究を進める姿勢が見られました。到達目標の達成度については、100%の学生が「達成できた」と回答しており、充実した学びを得られたことが分かります。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業の分かりやすさについては、全員が「わかりやすかった」と回答しており、指導の明確さが高く評価されています。また、「ゼミがない日でも添削をしてもらえた」「相談に親身に対応してもらえた」といった意見があり、研究のサポート体制が整っていたと感じてもらえたようです。さらに、授業内容がシラバスと合致していたかについても100%の学生が「合致していた」と回答しており、計画的で一貫性のある指導であったと学生に感じてもらえたようです。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述では、「今後につながる有意義な研究ができた」「多くの学びが得られた」という意見が見られ、卒業論文の作成を通して、学生自身の成長を実感できたことが分かりました。また、研究活動の中で個別指導や添削対応が丁寧に行われていたことも評価されています。

④ 次年度に向けた課題・改善案

ゼミの時間外でも添削や指導が行われていた点は学生に好評でした。今後もこのサポートを継続し、学生の学びが深まるように、次年度でも丁寧な論文添削を続けていきたいと思えます。

教員名	中尾浩康								
科目名	卒業論文《対象:大4児教》					履修者数	6	回答者数	6
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定できる。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組むことができる。[DP1, DP2, DP3, DP5] 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至ることができる。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に回答することができる。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	66.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

なかには卒論作成が遅れ気味で、大変心配した人もいましたが、最終的には良い卒論・発表用資料を作成した人がほとんどでした。コロナ禍がようやく落ち着いたことも大きいですが、アンケート調査、インタビュー調査等、実地調査をしっかり行った人が例年以上に多く、過去と比較しても良い水準の卒論が多くあって、とても嬉しく思いました。学会・研究会等で発表してもらいたいくらいのものも複数ありました。

卒業後も、自分の興味・関心のあることは、ぜひ勉強を続けていってください。私も、常に勉強と努力を重ねていきたいと思っています。本当にお疲れ様でした。そして、本当に卒業おめでとう。

教員名	半澤嘉博								
科目名	卒業論文《対象:大4児教》					履修者数	6	回答者数	3
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5]
3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

卒論ご苦労様でした。生涯にわたる自分の教育研究課題としていってください。

教員名	宮祐子							
科目名	卒業論文《対象:大4児教》				履修者数	5	回答者数	5
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	実験実習実技			必修／選択				

到達目標

1. 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3]
2. 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5]
3. 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7]
4. 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.2	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.4	D-9	担当教員に質問したか	80.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	山田恵美								
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫					履修者数	6	回答者数	6
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	実験実習実技			必修／選択					

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5] 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.7	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.5	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎週集まっても個別指導的な内容が多くなってしまい、スケジュール管理やアドバイスなど、ゼミの運営・進行については課題が残りました。せっかくそれぞれが興味深いテーマで研究していたので、もっと内容を共有できたら学び合いにつながったのだと思いました。卒業論文の執筆だけではなく、その過程での学びをゼミ全体で共有し、研究結果を議論する場を確保できるような工夫については引き続き今後の検討課題としたいと思います。

教員名	結城孝雄									
科目名	卒業論文《対象:大4児教》					履修者数	3	回答者数	-	
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	実験実習実技			必修／選択						

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5] 3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	-	実施形態(すべて対面)		-人	実施形態(対面に一部メディア)		-人
A-2	復習をしたか	-	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	-	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	-	実施形態(すべてメディア)		-人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	-	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	-	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	-	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	-	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	若井広太郎									
科目名	卒業論文≪対象:大4児教≫						履修者数	6	回答者数	5
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	実験実習実技			必修／選択						

到達目標

1 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5]
3 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.2	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	3.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

初めての卒業論文の指導で、私自身も手探りで進めていましたが、みなさんの自主性とチームワークで、良い探究の時間になったのではないかと感じています。卒業後はそれぞれの道に進みますが、卒業論文で調べたこと、考えたこと、対話したことがみなさんの糧になれば幸いです。こちらこそ、素晴らしい時間をありがとうございました。

教員名	半澤嘉博／西野真由美						
科目名	卒業論文《対象：大4児教》				履修者数	7	回答者数
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	実験実習実技			必修／選択			
							1

到達目標

1) 自らの問題意識および先行研究をふまえて研究課題を設定している。[DP1, DP2, DP3] 2) 研究課題に適した方法を見出し、その知識やスキルを活用して課題解決に向けて論理的に思考し取り組んでいる。[DP1, DP2, DP3, DP5] 3) 研究の内容と結論を論理整合的に文章化し、何らかの課題解決に至っている。[DP5, DP6, DP7] 4) 研究の内容をわかりやすく伝え、質問に適切に応答する。[DP5, DP6, DP7]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	4.0	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	4.0	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	2.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	4.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

卒論ご苦労様でした。生涯にわたる自分の教育研究課題としていってください。

教員名	中尾浩康								
科目名	社会科教育演習《対象:大4児教》					履修者数	7	回答者数	7
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

小学校社会科の授業(特に近現代の諸課題)について、授業づくりや指導方法を身につけることができる。(DP4～DP8)

①指導案を作成し、授業構想や模擬授業を行うことができる。(DP4・DP5・DP6) ②教材研究の必要性を理解し、教材を作成することができる。(DP4・DP5・DP6) ③他者の授業を参観することにより、意見や批評ができる。(DP4・DP7・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.6	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	66.7%	F-15	担当教員に質問したか	100.0%
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.0
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

4年後期は中学教育実習がある人も少なくなく、しかも月曜日はこの授業だけということで、受講生が少なくなりました。教育実習や卒論作成、資格の授業等もあって忙しかったと思いますが、時間をやりくりして頑張って取り組んでくれました。アンケート結果も予想以上に良く、驚きました。有難うございました。

少人数であったことで、「第2ゼミ:教材開発ゼミ」のような充実した授業になったと感じます。「演習」なので、より深いレベルの授業づくりを目指しつつも、社会に出る前に知っておいて欲しい知識や教養も身につけて欲しいと、映像資料やICTを積極的に活用し、反転授業やプレゼン(授業構想づくり)をメインに展開しました。社会科は学び続け、自ら調べ・考える姿勢ことが大切です。ぜひ今後も学び・考え続けていってください。

教育実習や資格の授業との兼ね合いもあって、この授業は色々調整が難しい面もありますが、私もより良い授業になるようPDCAサイクルを繰り返して努力していきたいと思っています。有難うございました。

教員名	石田淳一								
科目名	算数科教育演習《対象:大4児教》					履修者数	2	回答者数	1
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

算数科教育演習は3年前期の算数科教育内容、3年後期の算数科教育法、4年前期の教育実習における算数の実習授業と関連付けながら、算数の授業力を高めるために授業展開構想力や授業分析力をつけることを目標とする。

①算数の指導内容とその系統性、関連性を踏まえた教材研究の観点で実習時の学習指導案を検討し、意見を述べることのできる(DP4・DP8) ②学び合いスキルの活用の観点から算数の授業映像をみて授業分析ができる(DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.0	実施形態(すべて対面)		1人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	0.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.0	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	鶴巻景子								
科目名	学校図書館メディアの構成≪対象:大4児教≫					履修者数	48	回答者数	43
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

学校図書館の専門職である司書教諭として、①学校図書館メディアの構成に関する基本的な知識が理解し、説明できる。(DP2) ②演習等を通して、学校図書館メディアの構築に関する具体的な実務がきるようになる。(DP4・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		41人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	34.1%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.5
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	2.5

教員コメント

学校図書館メディアの構成では、特に、選定や分類、配架など、専門的な図書館の蔵書やその他のメディアの組織化が中心となり、専門的な内容が多くありましたが、どの内容もコンピュータを活用しながら友達と話し合うなど、進んで取り組んでくださっていました。まとめとしてのご自身が図書館司書教諭としてどのような図書館を創っていくかの授業では、それぞれがコンセプトを持ってこれまでの学習を生かして、よりよい学校図書館を考えて発表していました。後期は卒業に向けての論文や実習が後期にあった人など忙しい中でも、熱心に取り組んでいました。ぜひ、卒業後、学校図書館にかかわる機会がありましたら学んだことを活用してほしいと思います。

教員名	鶴巻景子								
科目名	学習指導と学校図書館《対象:大4児教》					履修者数	47	回答者数	35
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

学校図書館の専門職である司書教諭として ① 学習指導要領における学校図書館の意義と役割、各教科等での活用について理解し、説明できる。(DP1・DP2) ② 演習等を通して、教科指導や探究的な学習等において、具体的な学校図書館メディアの活用ができるようになる。(DP3・DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	39.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

学修指導と学校図書館では、子どもたちが学校図書館を活用できるように、教科の学習、探究学習、読書活動を中心にコンピュータを活用しながら友達と話し合うなど、進んで取り組んでくださっていました。特に、図書便りは、それぞれがよい本を選び紹介することや利用指導などを工夫して大変すばらしい図書便りができ、全員で共有することができました。教育課程の中心としての学校図書館の司書教諭の役割についても考えてくれたのはとても良かったです。後期は卒業に向けての論文や実習が後期にあった人など忙しい中でも、熱心に取り組んでいました。ぜひ、卒業後、学校図書館にかかわる機会がありましたら学んだことを活用してほしいと思います。

教員名	鶴巻景子								
科目名	情報メディアの活用《対象:大4児教》					履修者数	44	回答者数	37
曜日	水	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

学校図書館の専門職である司書教諭として ①学校図書館における情報メディアとその活用についての基本的な知識を理解し、説明できる。(DP2) ②ICTを活用した演習等を通して、知識・技能を生かして、学校図書館における検索や資料活用など、情報メディアの具体的な活用指導や適切な情報活用ができるようになる。(DP4・DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		35人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	34.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	3.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.0

教員コメント

情報メディアの活用では、特に、本や新聞などの印刷メディアのよさを理解した上で、インターネットによるコンテンツやサイトの活用を多く学んでもらいました。そのためのパスファインダーもとてもよくできていました。後期に実習があった人は、大変だったと思いますがそれぞれがしっかりと資料を読んで学んでくださり、よく頑張りました。これからの学校図書館が情報化時代に大きく変化していく中で、専門的に知的財産権や著作権、情報モラルも学んでいきました。少し難しかったですが、よく理解してくれていました。司書教諭の仕事も情報化時代に大きく変化していくと思います。ぜひ、卒業後、学校図書館にかかわる機会がありましたら学んだことを活用してほしいと思います。

教員名	関根正弘								
科目名	理科教育演習《対象:大4児教》					履修者数	8	回答者数	7
曜日	水	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

①小学校理科の各学年の目標や内容と、問題解決の過程を実践的に理解することができる。(DP4) ②単元のねらいに沿って作成した学習指導案で模擬授業を実施し、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び、協働的な学びの実現を目指す指導上の課題を明らかにすることができる。(DP5.DP8) ③小学校理科の観察・実験で扱う教材・教具を作成したり、準備したりして、実際の模擬授業で有効に活用することができる。(DP6.DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	100.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.9	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

3年次の理科教育法は教科書に沿った授業を取り扱いましたが、この理科教育演習では学習が終わった後の活用場面での授業を実践することをねらいました。各学年で取り扱うように学習指導要領で示されている「ものづくり」の授業を中心に模擬授業を実施しました。それぞれ工夫して授業を創り、活用、発展的な内容になっていました。小学校現場でもこのような「ものづくり」の研究授業に触れることは少ないと思います。自分で開発した授業、友達が創った授業を参考にして学校の授業で学習が完結せず、身に付けた知識や技能を家庭や地域でも生かして、子供たちが自ら追究していこうとする理科好きな子供たちを育てていってください。皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

教員名	石田淳一／今井夏子／関根正弘／山田恵美／若井広太郎							
科目名	教職実践演習(幼・小)《対象:大4児教》				履修者数	92	回答者数	15
曜日	木	時限	3限	開講学部	児童学部			
授業形態	演習			必修／選択	開講学科 初等教育学科(児童教育学科)			

到達目標

4年間の大学や教育実習など学校現場での学びを振り返り、幼稚園教員や小学校教員としての最低限必要な知識・技能を身に付けることができる。((DP4・DP5・DP6・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		6人	実施形態(対面に一部メディア)		9人
A-2	復習をしたか	1.6	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	22.2%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.1
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.6
B-6	シラバスとの合致	3.5	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	11.1%
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	44.4%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	2.7

教員コメント

教員名	土橋久美子							
科目名	保育内容の指導法(健康)《対象:大4児教》				履修者数	50	回答者数	43
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	演習			必修／選択				

到達目標

1. 領域「健康」の観点から、子どもの身体の発達、運動能力の発達、心の発達に関する理解を深めることができる。(DP3・DP4・DP5) 2. 乳幼児期の生活リズムや基本的生活習慣、身体的な遊びなどの重要性を説明することができる。(DP3・DP4・DP5) 3. 子どもが健康にそして安全な生活習慣を身につけるための実践的な指導や、保育者の援助のあり方について具体的に述べるができる。(DP3・DP4・DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		43人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	27.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

領域「健康」に関する授業であったので、学生が幼稚園実習に行く前に受けていただいた方が良かったかなと思いました。

しかし、幼稚園実習での経験や子どもの姿をイメージしながら、学生の皆さんは授業を受けることができたと感じており、経験を理論で確認することが出来たのではないかと思います。

授業内試験では持ち込み不可としましたが、幼稚園免許を取得するための覚えておくべき内容が多々あり、また、実際の現場においては、覚えた知識を役に立てるために、覚えた知識を確認する必要があったと感じています。

学生それぞれの知識を確認する上では、持ち込み不可で対応していただきました。覚えたことが今後皆さまの将来に役立つことを願っています、

教員名	山田恵美										
科目名	保育内容の指導法(環境)《対象:大4児教》					履修者数	50	回答者数	38		
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	演習			必修／選択							

到達目標

1) 領域「環境」のねらい・内容を理解し、保育計画の立案に取り入れることができる。(DP1・DP3・DP4・DP5) 2) 幼児の発達過程に配慮しながら、子どもが自ら興味・関心を持って環境に関わっていけるための環境構成を工夫できる。(DP2・DP3) 3) 草花を使った遊びを実践したり、考案したりすることができる。(DP3) 4) 多様な価値観を尊重し、多角的な視点から子どもを捉えることができる。(DP5・DP8) 5) これらを適切に指導案に反映させることができる。(DP3・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		34人	実施形態(対面に一部メディア)		4人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	26.5%	F-15	担当教員に質問したか	25.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	3.8
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.3
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.8
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	25.0%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	2.8

教員コメント

新カリキュラムとして今年度から新設された科目でした。内容の半分は旧カリから引き継ぎ、半分が新規の内容となりましたが、みなさんからの評価やコメントを読む限り、概ね内容も理解しやすさも及第点をいただけたのかなと思います。コメントには好意的な感想ばかりだったので、満足度に「やや不満」と回答された方がどのような点で不満を感じていたのかが分かりませんが、今後も常によりよい授業になるように検討を続けていきます。

この授業というわけではないものの、頑張りが評価につながっていないと感じていた方がいらしたようなので、課題や取組が評価(達成度)につながる提示の仕方についても改善していけたらと思います。

多くの受講者が幼稚園には就職しませんが、多様な意見に触れられるディスカッションは概ね好評で意義を感じてもらっていたようですし、小学校という現場で子ども達と接する人がほとんどだと思うので、児童期に接続する幼児期の発達や教育について学んだことを今後活かしてもらえるように伝え方も工夫していこうと思います。

教員名	橋本千鶴								
科目名	保育内容の指導法(言葉)《対象:大4児教》					履修者数	50	回答者数	38
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1. 「幼稚園教育要領」に示される領域「言葉」のねらい、内容、指導法について理解し、説明することができる。(DP1・DP3・DP6) 2. 乳幼児の自己表現とコミュニケーションの特性を多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことができる。(DP2・DP3・DP4・DP5) 3. 絵本などの児童文化財についての教材研究を行い、計画を立てたり、実践したりすることができる。(DP3・DP4・DP5) 4. 絵本作り、紙芝居作り、言葉遊び、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養い、豊かに表現することができる。(DP3・DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		38人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	28.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

卒論や就職活動で忙しい4年生後期の授業でしたが、意欲的に取り組んでくださったことを嬉しく思います。この授業は領域「言葉」に関する科目で、1年次に履修した「幼児と言葉」に継続した授業として位置づけられています。4年次では、指導案作成や模擬保育、絵本や紙芝居の制作を通して、児童文化財の保育現場での展開について、より実践的に取り組んでいけるように授業を構成しています。これまでの学びや実習で積み重ねてきた力を発揮し、どの活動に対しても主体的に取り組む、さらに集大成として楽しそうに学びを深めてくれました。

アンケート結果で何よりも嬉しかったのは、「授業の到達目標の達成度」に関して、多くの人が「達成できた」と自己評価していることです。さらに自由記述欄でも、「楽しかった」「実習前にこの授業を受けたかった」「1年生のときよりも自分が成長しているんだなあ実感することができた」「模擬保育で話す力、対応力がついた」「絵本や紙芝居の制作が楽しかった」など、皆さんが意欲的に授業に取り組む、楽しみながらさらに力を伸ばしていった様子がうかがえます。また、授業について概ね高評価をいただいたことも、励みになります。

課題としては、授業前後の学修時間がやや少ない点でした。4年後期の多忙な時期であることにも配慮しながら、作品作りや実技の練習、授業後の復習など、さらに検討し、丁寧に声掛けをしていきたいと考えます。また、毎授業回で授業後の振り返りを兼ねて感想を書く時間を設けてきましたが、さらに授業内容に関する課題として位置づけたり、授業内容に関する質問も、授業内で受けられないときはこの感想に盛り込んでよいことを伝えていきたいと考えます。

大学での4年間で身に付けた力を発揮し、素敵な保育者、小学校教諭になることを応援しています。ご協力、ありがとうございました。

教員名	結城孝雄									
科目名	造形基礎Ⅱ ≪対象:大1初教A≫						履修者数	35	回答者数	30
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

造形基礎1を引き継ぎ、受講生は、造形活動を通して、① 造形に関する基本的な知識・技術を獲得し、活用することができる。(DP3.4) ② 学習支援者としての視点を持ち、造形活動を分析的に経験することができる。(DP4.5) ③ 各講義での作品等をポートフォリオ形式にファイルをして、今後の活動と実践に生かせる内容を作成できる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		28人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	60.7%	F-15	担当教員に質問したか	50.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	100.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

楽しいコメント！！ありがとうございます。w w

みんなと一緒に活動することが楽しいんだよねー、また、そういう雰囲気をつくれるクラスも素敵です。質の高い学びは、本来楽しいものです。

そのような設定意図がみなさんの感想から現れていることはとても嬉しいです。これからは、みなさんが授業を創る立場になっています、どうぞ楽しい授業をぜひ実現して下さい。

教員名	結城孝雄								
科目名	造形基礎Ⅱ ≪対象:大1初教B≫					履修者数	36	回答者数	28
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

造形基礎1を引き継ぎ、受講生は、造形活動を通して、① 造形に関する基本的な知識・技術を獲得し、活用することができる。(DP3.4) ② 学習支援者としての視点を持ち、造形活動を分析的に経験することができる。(DP4.5) ③ 各講義での作品等をポートフォリオ形式にファイルをして、今後の活動と実践に生かせる内容を作成できる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		28人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	42.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

コメントありがとうございます。毎年、みなさんの様子を見ながら、少しずつ変化を入れてコンテンツを構成しています。みんなと一緒にわいわいしながら、みなさんが丁寧に活動できたことは私も嬉しい限りです。

学びは、苦しいものでなく 本来楽しいものです。「やらされる」勉強は学びではありません。興味関心を持って、楽しく活動できることをこれからも心がけたいと思います。

教員名	阿部藤子								
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》					履修者数	9	回答者数	8
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 小学校の授業を観察しながら授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		8人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	25.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

授業を視聴したり模擬授業の計画実施をしたりする中で、授業の技術や知識をたくさん吸収できたと思います。ほかの人の模擬授業にもコメントすることで、授業を見る目も養えたと思います。授業をするのは大変だけれど奥が深く面白かったと思います。

教員名	天野美穂子								
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》					履修者数	9	回答者数	7
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 小学校の授業を観察しながら授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	42.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	4.0	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	4.0	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	4.0	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

本科目は、授業視聴を通して授業を構成する観点・授業デザインの方法を習得することや、授業実践を通して授業に必要な知識・技能を身につけていくことを中心に授業デザインされたものです。そして、そのために、毎回の授業ではグループでのワークや議論の時間を多く設けています。受講生は毎回の課題やグループワーク、模擬授業に真剣に取り組む、努力もしていました。こうした取り組み態度は、アンケートの「授業の到達目標の達成度」や「授業満足度」の高さにも反映されていたと思われます。

自由記述では、「授業を行う上での指導方法を様々な視点から学ぶことができた。」「模擬授業がすごくいい経験となってよかった。」「色んな人の模擬授業を見て、楽しかったし参考になる事が多かった。」のようなコメントがみられ、授業内容や進め方について一定の評価が得られたと感じています。今後は、受講生の実践力をより高められるよう、工夫を重ねていきたいと考えます。

教員名	石田 淳一								
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》					履修者数	9	回答者数	-
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 小学校の授業を観察して授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	-	実施形態(すべて対面)		-人	実施形態(対面に一部メディア)		-人
A-2	復習をしたか	-	D-9	担当教員に質問したか	-	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	-	D-10	学生の参加	-	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	-	実施形態(すべてメディア)		-人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	-	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	-	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	-	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	-	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	関根正弘									
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》						履修者数	9	回答者数	9
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 小学校の授業を観察しながら授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		9人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	55.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

45分の模擬授業をしっかりと実践することができました。そのために準備に時間をかけて教材・教具を作成したり発問を考えたりしたからこそ上手に授業ができたのだと思い感心しました。毎回の授業後の協議会で課題に挙げられたことを次の教師役の人が改善して取り入れることで、回を重ねるごとに質の高い現場の授業に近付いてきました。クラスのみんなでよりよい授業を考えて創っていかうというねらいが最後まで生きていてとてもよい学びを得られたと思います。様々な教科の模擬授業を実践しましたが、どの教科でも授業を展開していくことに関しては同じことが多くあることにも気付くことができました。皆さんのレポートを見るのが楽しみで毎回全員にコメントを書くのも楽しくできました。2年次からは各教科の模擬授業も実践していきます。さらに授業力を高めていってください。

教員名	田村恵美									
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》						履修者数	9	回答者数	9
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 小学校の授業を観察しながら授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.6	実施形態(すべて対面)		7人	実施形態(対面に一部メディア)		2人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	71.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.5
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	50.0%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

授業アンケートへの回答をありがとうございました。

① 学生の取り組み・達成に関する現状

事前学習や復習の時間については、「1時間以内」が最多でしたが、「1～2時間」または「2時間以上」と答えた学生も一定数おり、それぞれの学習スタイルに合わせて取り組んでいたことが分かりました。授業の到達目標については、100%の学生が「達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答しており、学びの成果が実感できた授業であったことが伺えます。

② 教員の授業の仕方に関する現状

授業の分かりやすさについては、「わかりやすかった」「まあわかりやすかった」と回答した学生が100%を占めており、説明の明確さが高く評価されています。また、「工夫されていた」「まあ工夫されていた」との回答も100%で、学生が興味を持ち、学びやすいような工夫が凝らされていたことが分かります。特に、少人数であったことが「意見を言いやすい環境」を生み、活発な意見交換が行われたことが評価されていました。

③ 自由記述から読み取れること

自由記述では、「超楽しかった」「様々な意見を聞いたので、教師観や授業観について考えが豊かになった」「みんな優しく失敗しても大丈夫な環境だった」といったポジティブな意見が多く見られました。これらのコメントから、授業の雰囲気が高く、安心して学び合える環境が整えられていたことが学修者に評価されていました。また、「模擬授業のフィードバックがためになった」「スキル向上につながった」という意見もあり、実践的な学びが充実していたことがうかがえます。

④ 次年度に向けた課題・改善案

フィードバックが有益だったとの声があるため、学生同士で相互評価を行う仕組みを増やすことで、より多様な視点から自分の強みや改善点を発見できる機会を提供できるように工夫してゆきたいと思います。

教員名	半澤嘉博									
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》						履修者数	9	回答者数	9
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

(1) 小学校の授業を観察して授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		5人	実施形態(対面に一部メディア)		4人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	80.0%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	2.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.3
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	50.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.5

教員コメント

実践的な授業作りを学ぶことができたかと思います。自分の魅力を最大限活かした授業の工夫をして、子ども達を引きつけていってください。

教員名	山田恵美								
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》					履修者数	8	回答者数	8
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 小学校の授業を観察しながら授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		8人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	37.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業は授業内容、進め方は担当教員間で共通のものではありますが、少人数のゼミ形式で、ディスカッション中心に進めているため、受講者の皆さんと一緒に授業を作り上げました。評価を見ると概ね好評な評価をいただけていたので、授業視聴、模擬授業、ディスカッションを通してそれぞれに学びがあったのだと思います。

来年度は一旦担当を外れますが、コメントの中に「説明が分かりにくいことがあった」とのご意見があったので、また担当する機会があれば、より分かりやすい説明を心がけたいです。

教員名	結城孝雄								
科目名	授業実践演習Ⅰ《対象:大1初教》					履修者数	8	回答者数	2
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

(1) 小学校の授業を観察して授業デザインに必要な観点を説明できる。(DP1・DP2・DP3) (2) 模擬授業を実施し、指導技術の重要な点や不十分な点に気づく。(DP4) (3) 他の学生との議論を通して、自分の授業観・教師像をつくる。(DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		2人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.5	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	－
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	－
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	－
B-5	課題	2.5	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	－
B-6	シラバスとの合致	3.5	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	－
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	－
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	－

教員コメント

教員名	中村薫						
科目名	教育相談の理論と方法《対象：大1初教》				履修者数	71	回答者数
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	講義		必修／選択		5		

到達目標

教育相談の理論と方法を理解し説明できる。児童・生徒の心理的問題及び発達課題を理解し、その援助ができる。カウンセリングマインドを理解し、カウンセリングにおける基本的な態度・技法が実践できる。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.8	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	－
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	－
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		5人	F-17	指示の明確さ	－
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.6	F-18	学修時間	－
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	2.6	F-19	教員への発言機会	－
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	20.0%	F-20	学生どうしの意見交換	－
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	－

教員コメント

教員名	若井広太郎／半澤嘉博							
科目名	障害と教育《対象:大1初教》				履修者数	53	回答者数	37
曜日	水	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

- 1 障害児教育や特別支援教育、さらにインクルーシブ教育の歴史を概観し、その教育的意義を理解する。 (DP2 DP4) 2 障害に応じた基本的な支援や配慮を行うことができる資質を身に付ける。 (DP6 DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		20人	実施形態(対面に一部メディア)		17人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	15.0%	F-15	担当教員に質問したか	17.6%
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	3.4
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.8
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	2.8
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	23.5%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	29.4%
C-8	達成度	3.8	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	3.2

教員コメント

障害の中でも主に発達障害、知的障害に焦点を当てて、講義を行いました。おそらく初めて発達障害の話を聞く方もおられたのではないのでしょうか。そのため、体験活動なども交えながら、より身近に障害を感じていただきたと考えて授業を行っていました。また授業の後半では、グループワークを行い、障害について関連する内容をより深めました。どのグループも素晴らしい内容で、障害に対するみなさんの関心とチーム力の高さを感じました。みなさんの発表やコメントから、私自身もたくさんのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。今回の授業が、今後の初等教育学科における学修の何らかのお役に立てば嬉しいです。

教員名	阿部藤子								
科目名	国語科教育内容≪対象:大1初教A≫					履修者数	36	回答者数	32
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

1 学習指導要領の国語科の目標と内容を説明できる。【DP1】 2 国語科指導の基礎基本を理解する。【DP3】【DP4】【DP7】【DP8】 ・とりわけ「読むこと」の教材研究法を理解し、具体的な教材に即して教材研究ができ授業計画の概略を立てることができる。 ・「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域の教材研究法や指導法を理解する。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		31人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	22.6%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.0
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	4.0	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

国語科だけではなく各教科の「教育内容」は14回では時間が足りないくらいですが、国語科教育の大枠と教材研究法について学べたと思います。毎回の事前事後課題にはしっかり取り組む人が多く感心しました。

実際に模擬授業に取り組むようになると、この科目で学修したことを使って授業準備をしていくことになります。2年次の「国語科教育法」では、この科目の資料やテキストなども振り返りながら取り組んでください。

教員名	阿部藤子							
科目名	国語科教育内容≪対象:大1初教B≫				履修者数	35	回答者数	26
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

1 学習指導要領の国語科の目標と内容を説明できる。【DP1】 2 国語科指導の基礎基本を理解する。【DP3】【DP4】【DP7】【DP8】 ・とりわけ「読むこと」の教材研究法を理解し、具体的な教材に即して教材研究ができ授業計画の概略を立てることができる。 ・「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域の教材研究法や指導法を理解する。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	23.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.7	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

国語科だけではなく各教科の「教育内容」は14回では時間が足りないくらいですが、国語科教育の大枠と教材研究法について学べたと思います。毎回の事前事後課題にはしっかり取り組む人が多く感心しました。

実際に模擬授業に取り組むようになると、この科目で学修したことを使って授業準備をしていくことになります。2年次の「国語科教育法」では、この科目の資料やテキストなども振り返りながら取り組んでください。

教員名	天野美穂子										
科目名	子どもの思考とプログラミング《対象:大1初教A》					履修者数	35	回答者数	32		
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

(1)小学校で必要なプログラミング教育の内容について、説明することができる。(DP2・DP3) (2)論理的思考・プログラミング的思考について、説明することができる。(DP2・DP3) (3)子どものプログラミング的思考を育成する指導方法について、自分なりに工夫することができる。(DP4) (4)子どものプログラミング的思考を育成する指導方法について、他者と議論し、協調しながら考えることができる。(DP4・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	43.8%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.9	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業は、学生自身が小学校時代に学んでいない「プログラミング」について、それを理解するだけでなく「実際にどう教えるのか」までを「7回」で指導するということもあり、できるだけわかりやすく、ワークやプログラミング教材の演習を通して学べるよう心掛けました。

自由記述を見ると、「プログラミングにはコンピュータを使用しなくても行えるものがあることを知った。授業だけでなく、日常生活の流れについてもプログラミングを通して学べるため、どんどん活用していけたらと思った。」というようなプログラミングの理解につながるコメントや、「スクラッチでプログラミングを実践する機会があって学びに繋がった。」というような演習(体験)を評価するコメントが複数みられたことから、意図していたことに関して一定の評価を得られたと感じています。

また、自由記述の中には、「改めて、プログラミングの難しさがわかった。」といった経験したからこそ生まれた得た感想も見られたため、今後は学生が授業後に自主的に学修を進め、より理解を深めていけるような指導も検討していきたいと考えます。

教員名	天野美穂子									
科目名	子どもの思考とプログラミング《対象:大1初教B》						履修者数	35	回答者数	4
曜日	月	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)小学校で必要なプログラミング教育の内容について、説明することができる。(DP2・DP3) (2)論理的思考・プログラミング的思考について、説明することができる。(DP2・DP3) (3)子どものプログラミング的思考を育成する指導方法について、自分なりに工夫することができる。(DP4) (4)子どものプログラミング的思考を育成する指導方法について、他者と議論し、協調しながら考えることができる。(DP4・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		4人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	25.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

この授業は、学生自身が小学校時代に学んでいない「プログラミング」について、それを理解するだけでなく「実際にどう教えるのか」までを「7回」で指導するということもあり、できるだけわかりやすく、ワークやプログラミング教材の演習を通して学べるよう心掛けました。

自由記述を見ると、「プログラミングにはすごく苦手意識がありましたが、この科目を通してプログラミング的思考がこれから生きていく上で重要なものであることやプログラミングの楽しさも学ぶことができ、良かったです。」というようなプログラミングの理解につながるコメントや、「ペアワークや、scratchを使う時間があり、実践的な活動が多かったため、とても楽しく授業を受けることができた。」というような演習(体験)を評価するコメントが複数みられたことから、意図していたことに関して一定の評価を得られたと感じています。

また、上記コメントにも見られたような「プログラミングに苦手意識がある」学生は例年少なからず存在するため、学生の苦手意識を払拭し、教員になった際に心からプログラミング的思考の大切さやプログラミングの楽しさを語れるよう、講義内容をより充実したものにしていきたいと考えます。

教員名	岩崎香織										
科目名	家庭科教育内容《対象:大1初教A前》					履修者数	19	回答者数	16		
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

1. 小学校学習指導要領を基に家庭科の教育内容を理解し、説明することが出来る。(DP2・DP3) 2. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎知識を習得することが出来る。(DP3・DP6) 3. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎技能を習得することが出来る。(DP3・DP6) 4. 家庭科独自の実践的・体験的な教育法を実践することができる。(DP3・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.1	D-9	担当教員に質問したか	31.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	2.4	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、小学校家庭科の教育内容について、教師のとしての基礎知識・技能の定着度を確認する授業である。1クラスを前半後半の2グループに分け、小集団(20名程度)に対し、実技指導も含めた授業を行っている。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値が1.75～2.13点と低かったが、実際には手縫いや調理、家計簿作成等毎授業に事後課題を出しており、一定以上の授業外学習は行っていると考えられる。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、評価が高かった項目は「授業満足度」3.63点であり、他の項目の評価も3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.44点であり、学生の本授業に対し、ある程度の満足を得たと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「家庭科の内容だけでなく、社会の状況まで知ることができた」「授業以前よりも知識や技術が増えたと自信を持って言えるので有意義な時間だった」「楽しかったけど課題が大変だった」等のコメントがあった。

・次年度に向けた課題・その改善案

1年後期に1単位としての授業であり、まだ学生が教職に関する学習を始めたばかりの授業内容として何を扱うべきか毎年悩みつつ試行錯誤しているが、今年度は、学生が特に家庭科の実技について苦手意識を持たぬようデモンストレーションを重視し、「思ったよりも簡単そう」と思えるよう工夫した。次年度は、調理室をお借りし、隔週開講で授業を運営する。少ない授業回数でどこまで教育内容の基礎が身に付くか、今後も改善を試みたい。

教員名	岩崎香織										
科目名	家庭科教育内容《対象:大1初教A後》					履修者数	17	回答者数	14		
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

1. 小学校学習指導要領を基に家庭科の教育内容を理解し、説明することが出来る。(DP2・DP3) 2. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎知識を習得することが出来る。(DP3・DP6) 3. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎技能を習得することが出来る。(DP3・DP6) 4. 家庭科独自の実践的・体験的な教育法を実践することができる。(DP3・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		14人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	42.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	2.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、小学校家庭科の教育内容について、教師のとしての基礎知識・技能の定着度を確認する授業である。1クラスを前半後半の2グループに分け、小集団(20名程度)に対し、実技指導も含めた授業を行っている。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値がいずれも1.79点と低かったが、実際には手縫いや調理、家計簿作成等毎授業に事後課題を出しており、一定以上の授業外学習は行っていると考えられる。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、評価が高かった項目は「教員の説明のわかりやすさ」3.71点であり、他の項目も3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.64点であり、学生の本授業に対し、ある程度の満足を得たと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「家庭科の教え方について学ぶことができてよかった」「実践を行うことでより頭に入りました」「裁縫や調理実習を子供とやるのは大変だなと思いました」等のコメントがあった。

・次年度に向けた課題・その改善案

1年後期に1単位としての授業であり、まだ学生が教職に関する学習を始めたばかりの授業内容として何を扱うべきか毎年悩みつづき試行錯誤しているが、今年度は、学生が特に家庭科の実技について苦手意識を持たぬようデモンストレーションを重視し、「思ったよりも簡単そう」と思えるよう工夫した。次年度は、調理室をお借りし、隔週開講で授業を運営する。少ない授業回数でどこまで教育内容の基礎が身に付くか、今後も改善を試みたい。

教員名	岩崎香織										
科目名	家庭科教育内容≪対象:大1初教B前≫					履修者数	18	回答者数	17		
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

1. 小学校学習指導要領を基に家庭科の教育内容を理解し、説明することが出来る。(DP2・DP3) 2. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎知識を習得することが出来る。(DP3・DP6) 3. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎技能を習得することが出来る。(DP3・DP6) 4. 家庭科独自の実践的・体験的な教育法を実践することができる。(DP3・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	56.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	2.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.2	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、小学校家庭科の教育内容について、教師のとしての基礎知識・技能の定着度を確認する授業である。1クラスを前半後半の2グループに分け、小集団(20名程度)に対し、実技指導も含めた授業を行っている。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値が1.71～1.94点と低かったが、実際には手縫いや調理、家計簿作成等毎授業に事後課題を出しており、一定以上の授業外学習は行われていると考えられる。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、評価が高かった項目は「授業満足度」3.76点であり、他の項目の評価も3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.65点であり、学生の本授業に対し、ある程度の満足を得たと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「実践と講義がちょうど良くあり、授業を楽しく受けられた」「食事やお金の大切さに気づききっかけとなる」「わからないことは丁寧に教えてくださって、毎授業楽しく取り組みました」等のコメントがあった。

・次年度に向けた課題・その改善案

1年後期に1単位としての授業であり、まだ学生が教職に関する学習を始めたばかりの授業内容として何を扱うべきか毎年悩みつつ試行錯誤しているが、今年度は、学生が特に家庭科の実技について苦手意識を持たぬようデモンストレーションを重視し、「思ったよりも簡単そう」と思えるよう工夫した。次年度は、調理室をお借りし、隔週開講で授業を運営する。少ない授業回数でどこまで教育内容の基礎が身に付くか、今後も改善を試みたい。

教員名	岩崎香織										
科目名	家庭科教育内容《対象:大1初教B後》					履修者数	17	回答者数	16		
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

1. 小学校学習指導要領を基に家庭科の教育内容を理解し、説明することが出来る。(DP2・DP3) 2. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎知識を習得することが出来る。(DP3・DP6) 3. 小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎技能を習得することが出来る。(DP3・DP6) 4. 家庭科独自の実践的・体験的な教育法を実践することができる。(DP3・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.7	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	6.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	2.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、小学校家庭科の教育内容について、教師のとしての基礎知識・技能の定着度を確認する授業である。1クラスを前半後半の2グループに分け、小集団(20名程度)に対し、実技指導も含めた授業を行っている。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値が1.69~1.94点と低かったが、実際には手縫いや調理、家計簿作成等毎授業に事後課題を出しており、一定以上の授業外学習は行うことが出来ていると考えられる。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、最も評価が高かった項目は「授業満足度」3.69点であり、他の項目の評価も3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.56点であり、学生の本授業に対し、ある程度の満足を得たと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「自分の将来にも繋がってくる内容だったので興味を持ちながら授業に取り組むことが出来た」「裁縫が苦手だったので一つの作品を作り上げることが出来るのか不安でしたが動画をmanabaのコースコンテンツに上げてくれたりしてもらいとてもわかりやすかった」「先生という存在が子どものお手本という考えがどうしても共感できなかった」等のコメントがあった。

・次年度に向けた課題・その改善案

1年後期に1単位としての授業であり、まだ学生が教職に関する学習を始めたばかりの授業内容として何を扱うべきか毎年悩みつつ試行錯誤しているが、今年度は、学生が特に家庭科の実技について苦手意識を持たぬようデモンストレーションを重視し、「思ったよりも簡単そう」と思えるよう工夫した。次年度は、調理室をお借りし、隔週開講で授業を運営する。少ない授業回数でどこまで教育内容の基礎が身に付くか、今後も改善を試みたい。

教員名	宮祐子／市川雅己／菊田知子／尾見敦子／牛頭真也／任暁剛／山本幸正							
科目名	音楽基礎Ⅱ《対象：大1初教A》				履修者数	37	回答者数	34
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部			
授業形態	演習			必修／選択	開講学科 初等教育学科(児童教育学科)			

到達目標

1. 音楽を形づくっている要素(拍、リズム、旋律、音の重なり、和音、フレーズ、形式)の観点から自分で楽曲分析を行い、演奏や鑑賞に役立てることができる。(DP3・DP4) 2. 主要3和音の基本形、転回形による和音伴奏、リズム形の応用、副3和音の使用など、伴奏のための発展的な方法、およびコードネームの仕組みを理解し、小学校歌唱共通教材の弾き歌いに活用することができる。(DP3・DP4) 3. 階名(ドレミ)と音名(イロハ、ABC)に習熟し、長調と短調、及び日本の音階について理解している。(DP3) 4. 小学校で扱うリコーダーの演奏技能と音楽的表現力を身に付けている。(DP3・DP4) 5. 音部記号(ト音記号、ヘ音記号)に習熟し、大譜表を読み、書くことができる。五線譜に拠らない、日本の伝統音楽の記譜法について知っている。(DP3) 6. 日本の伝統音楽や西洋音楽に親しみ、合唱や合奏の音楽的表現力を高め、協同して音楽を楽しむことができる。(DP3・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.4	D-9	担当教員に質問したか	39.4%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	3.4	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	3.8	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.2	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

教員名	宮祐子／市川雅己／菊田知子／尾見敦子／牛頭真也／任暁剛／山本幸正							
科目名	音楽基礎Ⅱ《対象：大1初教B》				履修者数	36	回答者数	32
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部			
授業形態	演習			必修／選択	開講学科 初等教育学科(児童教育学科)			

到達目標

1. 音楽を形づくっている要素(拍、リズム、旋律、音の重なり、和音、フレーズ、形式)の観点から自分で楽曲分析を行い、演奏や鑑賞に役立てることができる。(DP3・DP4) 2. 主要3和音の基本形、転回形による和音伴奏、リズム形の応用、副3和音の使用など、伴奏のための発展的な方法、およびコードネームの仕組みを理解し、小学校歌唱共通教材の弾き歌いに活用することができる。(DP3・DP4) 3. 階名(ドレミ)と音名(イロハ、ABC)に習熟し、長調と短調、及び日本の音階について理解している。(DP3) 4. 小学校で扱うリコーダーの演奏技能と音楽的表現力を身に付けている。(DP3・DP4) 5. 音部記号(ト音記号、ヘ音記号)に習熟し、大譜表を読み、書くことができる。五線譜に拠らない、日本の伝統音楽の記譜法について知っている。(DP3) 6. 日本の伝統音楽や西洋音楽に親しみ、合唱や合奏の音楽的表現力を高め、協同して音楽を楽しむことができる。(DP3・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.5	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	31.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	2.6	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	2.8	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.1	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	2.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.1	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	木村博人						
科目名	幼児と健康《対象：大1初教》				履修者数	45	回答者数
曜日	月	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)
授業形態	演習		必修／選択		40		

到達目標

授業の到達目標及びテーマは以下の通りである。 1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。(DP3、DP6) 2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。(DP3、DP4、DP5、DP6) 3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。(DP3、DP4、DP5、DP6) 4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。(DP3、DP4、DP5、DP6) 5) 幼児が身に付けていく内容と小学校の教科等のつながりを理解する。(DP3、DP4、DP5、DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.2	実施形態(すべて対面)		39人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.9	D-9	担当教員に質問したか	17.9%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		1人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	3.0	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	4.0	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	100.0%	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	100.0%	F-21	学修の効果	-

教員コメント

知識を増やすことは調べたり、書いたりする作業に時間をかければ、増やすことができますが、この時間はクラスメートの経験や考えや意見に触れることで、子どもたちにどのように向き合うかをシュミレーションすることを重要にしました。実際に子どもたちに接するときの対応の幅が広がってくれたら嬉しです。自分とは違う、どんな意見や考え方があったかを振り返っておきましょう。

教員名	橋本千鶴									
科目名	幼児と言葉《対象:大1初教》						履修者数	32	回答者数	28
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1. 幼児の特性を踏まえ、環境を通して行われる言葉の指導の内容的、方法的特質を理解し、説明することができる。(DP2・DP3)
2. 乳幼児期の言葉の発達や、言葉の育ちにかかわる諸問題について説明することができる。(DP2・DP6)
3. 「幼稚園教育要領」に記されている領域「言葉」のねらいや内容を理解し、保育実践での展開方法を構想することができる。(DP1・DP3・DP4・DP5)
4. 言葉を豊かに育てる児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身につけることができる。(DP3・DP4・DP5・DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.4	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	1.4	D-9	担当教員に質問したか	3.7%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	3.1	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.0
B-5	課題	2.1	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	4.0
B-6	シラバスとの合致	3.5	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.1	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.1	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

この授業は領域「言葉」に関する科目で、1年次の本授業に継続して、4年次では「保育内容の指導法(言葉)」を学ぶように位置づけられています。

本授業は、保育現場で実践するときに少しでも役立つようにと願い、理論と実技の両面で工夫して授業を進めました。特に人前で声を出すことへの苦手意識が減るように、なるべく多くの発表の機会を設けました。皆さんがその実技に楽しみながら取り組み、その積み重ねによって自信をつけていったことがうかがえるアンケート結果に、まずはとても安心し、皆さんの協力に感謝します。

何よりも嬉しかったのは、「授業の到達目標の達成度」に関して、多くの人が「達成できた」「ほぼ達成できた」と自己評価していることです。自由記述欄でも、「分かりやすかった」「楽しかった」「実践が多くてよかった」「グループワークも多く設けられ、より学びが深まった」などが見られ、皆さんが意欲的に授業に取り組み、楽しみながら力を伸ばしていった様子がうかがえます。乳幼児の言葉の発達過程を理解し、保育者としての適切な支援を学んでくれたことと評価します。また、動画の視聴も分かりやすかったとの記述が多かったことや、授業全体に対して概ね高評価をいただいたことも、とても励みになります。

課題としては、授業前後の学習時間がやや少ない点でした。実技の前の練習や授業後の復習など、さらに丁寧に声掛けをしていくことが必要だと考えます。また、毎授業回で授業後の振り返りを兼ねて感想を書く時間を設けてきましたが、さらに授業内容に関する課題として位置づけたり、授業内容に関する質問も、授業内で受けられないときはこの感想に盛り込んでよいことを伝えていきたいと考えます。

さらに学習を深め、素敵な保育者、小学校教諭になることを応援しています。

教員名	岩崎香織									
科目名	家庭科教育法《対象:大2初教A》						履修者数	41	回答者数	27
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

・子どもの家庭生活の現状や家庭科教育の歴史から、小学校家庭科の教育的意義を説明することが出来る。(DP2) ・小学校学習指導要領における、家庭科の目標・内容・指導方法、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、具体的な指導案を作成することが出来る。(DP2・DP4・DP5・DP8) ・小学校家庭科の実習指導について、安全に配慮し実施することが出来る。(DP2・DP4・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	11.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、小学校家庭科の教育法について、基本事項を開講すると共に教材研究や模擬授業をすすめた。教材研究のICTツールとしてロイロノートスクールを用いた。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値が2.23～2.33点と評価が低かったが、授業内では、学生個々が授業冒頭に一人1回ずつ小学校家庭科の教材研究の成果発表を行っており、グループで模擬授業の準備や練習も進めており、一定以上の授業外学習時間も行っていると考えられる。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、最も評価が高かった項目は「プレゼンテーション、グループワーク、意見交換など学生が参加する機会がありましたか」3.67点であり、他の項目の評価は3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.26点であり、学生の本授業に対し、ほどほどには満足したと考えられる。

・自由記述から読み取れること

「ロイロノートを活用した発表などの機会が多く取られており、さまざまな経験を積めた」「たくさん意見を言えました」「家庭科の指導は注意しなければいけないことが他の教科よりも多いと感じた」等のコメントがあった。模擬授業の進め方や課題の説明について「分かりにくかった」等のコメントと「指導案の作り方を細かく学ぶことが出来た」「サボる学生と頑張る学生がいて不平等だった」等のコメントがあった。

・次年度に向けた課題・その改善案

2年次後期のため介護等体験が含まれたがA組は、介護体験の重なりが少なかった。欠席した場合、マナバ上で授業資料を確認できるようにしたが、説明が伝わりにくかったと考えられる。模擬授業の運営方法は、今後の検討課題とし、次年度は、授業資料のプリント配布を再開したい。

教員名	岩崎香織										
科目名	家庭科教育法《対象:大2初教B》					履修者数	40	回答者数	26		
曜日	水	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)				
授業形態	講義			必修／選択							

到達目標

・子どもの家庭生活の現状や家庭科教育の歴史から、小学校家庭科の教育的意義を説明することが出来る。(DP2) ・小学校学習指導要領における、家庭科の目標・内容・指導方法、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、具体的な指導案を作成することが出来る。(DP2・DP4・DP5・DP8) ・小学校家庭科の実習指導について、安全に配慮し実施することが出来る。(DP2・DP4・DP5・DP8)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.3	実施形態(すべて対面)		26人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	23.1%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	2.9	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.1	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.3	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.2	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

・「学生の取り組み・達成」に関する、この授業の現状(特徴)

本科目は、小学校家庭科の教育法について、基本事項を開講すると共に教材研究や模擬授業をすすめた。教材研究のICTツールとしてロイロノートスクールを用いた。

授業アンケートの結果から、学生の授業への取り組み(予習や復習)について、評価の平均値が2.23～2.35点と評価が低かったが、授業内では、学生個々が授業冒頭に一人1回ずつ小学校家庭科の教材研究の成果発表を行っており、グループで模擬授業の準備や練習も進めており、一定以上の授業外学習時間も行っていると考えられる。

・「教員の授業の仕方」に関するこの授業の現状(特徴)

授業アンケートの結果から、最も評価が高かった項目は「授業満足度」3.46点であり、最も評価が低かったのは「教員の説明の分かりやすさ」2.92点であった。他の項目の評価は3点以上であった。「授業の到達目標の達成度」の評価は、3.19点であり、学生の本授業に対し、ほどほどには満足したと考えられる。

・自由記述から読み取れること

模擬授業の進め方や課題の説明について「分かりにくかった」等のコメントが複数あった。一方で「指導案の作成が大変だったが、指導案作りの説明はためになった」「指導案の添削をたくさんして下さい助かりました」等のコメントも複数あった。

・次年度に向けた課題・その改善案

2年次後期の授業であるため、途中に介護等体験が含まれ、今年度は、5年ぶりに介護等体験が後期の学外授業として実施されたため、授業運営が過年度と異なり難しかった。欠席した授業については、マナバ上で授業資料を確認できるようにしたが、今年度は、紙資料の配布を少なくしたため、より説明が伝わりにくかったと考えられる。模擬授業の運営方法については、今後の検討課題とし、次年度は、授業資料のプリント配布を再開したい。

教員名	今井夏子									
科目名	体育科教育法《対象:大2初教A》					履修者数	41	回答者数	37	
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1.小学校における体育科の目標および内容を理解し、説明することができる。DP2 2.各学年の発達段階に応じた運動を年間を通じて適切に配置できる。DP3 3.体育科における評価の観点、評価方法を学び、適切に評価することができる。DP4 4.各運動内容の授業展開を学び、適切な授業計画を立て、学習指導案が立案できる。DP5

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		13人	実施形態(対面に一部メディア)		24人
A-2	復習をしたか	1.5	D-9	担当教員に質問したか	15.4%	F-15	担当教員に質問したか	12.5%
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	3.0
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.5
B-5	課題	2.7	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	2.9
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	16.7%
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	8.3%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.2

教員コメント

教員名	今井夏子									
科目名	体育科教育法《対象:大2初教B》						履修者数	39	回答者数	34
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1.小学校における体育科の目標および内容を理解し、説明することができる。DP2 2.各学年の発達段階に応じた運動を年間を通じて適切に配置できる。DP3 3.体育科における評価の観点、評価方法を学び、適切に評価することができる。DP4 4.各運動内容の授業展開を学び、適切な授業計画を立て、学習指導案が立案できる。DP5

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		15人	実施形態(対面に一部メディア)		19人
A-2	復習をしたか	1.5	D-9	担当教員に質問したか	26.7%	F-15	担当教員に質問したか	21.1%
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.3
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	3.7
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	21.1%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	26.3%
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	3.3

教員コメント

教員名	山田恵美									
科目名	保育指導論<<対象:大2初教>>					履修者数	44	回答者数	35	
曜日	金	時限	3限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)			
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び主要内容と全体構造を理解している。(DP1)
 2) 幼稚園における評価の考え方を理解し、遊びを通しての総合的な指導と適切な援助が行える。(DP3) 3) 幼児の発達過程を理解し、年齢に応じた指導や援助を考えることができる。(DP2) 4) 教育課程や中・長期的な指導計画と短期の指導計画の関係について理解している。(DP3) 5) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定して「幼稚園教育実習レベルの指導案」を作成することができる。(DP3) 6) 具体的な保育事例について、よりよい援助を考えたり、多様な意見に耳を傾けながら幼児理解を深め、保育者間の連携を図ることができる。(DP6)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		18人	実施形態(対面に一部メディア)		14人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	16.7%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.5	F-16	学生の参加	3.1
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		3人	F-17	指示の明確さ	3.6
B-5	課題	3.0	E-11	指示の明確さ	4.0	F-18	学修時間	3.1
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	3.3	F-19	教員への発言機会	14.3%
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	0.0%	F-20	学生どうしの意見交換	35.7%
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	0.0%	F-21	学修の効果	3.1

教員コメント

幼稚園の指導案が書けるようになることが大きな達成目標になっている科目で、指導案作成や指導案実践は大変ながらも来年度の実習に向けての意義を感じていただけたようでした。授業での説明をふり返ることができるように指導案のポイントをオンデマンドリンクを共有したこともあってか、実際に例年と比べても比較的良好に書けていました。今後もみなさんの学習しやすい方法を検討していきます。

教科書の選定について、3年次の別の授業でも同じ教科書を使うと伺っていることを説明していなかったようで、反省点として次年度に活かします。

教員名	阿部藤子									
科目名	国語科教育法《対象:大2初教A》						履修者数	41	回答者数	38
曜日	木	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

国語科の授業作りの基本を理解し、国語科「読むこと」の教材研究、授業設計、指導、評価を実施することで授業を省察することができる。【DP2】【DP3】【DP4】【DP5】【DP8】

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.4	実施形態(すべて対面)		38人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	3.3	D-9	担当教員に質問したか	18.4%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎回の事前・事後課題と模擬授業の準備があり、非常に負担の大きい科目だったと思います。しかし、皆さんがしっかり時間をかけ真剣に取り組んでいることが、提出した課題や授業の話合いの時に伝わってきました。そして回を重ねるごとに、指摘する意見が深く多岐にわたっていくのを実感しました。力がついてきていると思います。授業をするのは大変ですが、やればやるほどおもしろくなると思えていたら嬉しいです。

教員名	阿部藤子									
科目名	国語科教育法《対象:大2初教B》						履修者数	40	回答者数	36
曜日	金	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

国語科の授業作りの基本を理解し、国語科「読むこと」の教材研究、授業設計、指導、評価を実施することで授業を省察することができる。【DP2】【DP3】【DP4】【DP5】【DP8】

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	3.1	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.9	D-9	担当教員に質問したか	22.2%	F-15	担当教員に質問したか	－
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	－
B-4	興味への工夫	3.7	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	－
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	－	F-18	学修時間	－
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	－	F-19	教員への発言機会	－
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	－	F-20	学生どうしの意見交換	－
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	－	F-21	学修の効果	－

教員コメント

毎回の事前・事後課題と模擬授業の準備があり、非常に負担の大きい科目だったと思います。しかし、皆さんがしっかり時間をかけ真剣に取り組んでいることが、提出した課題や授業の話合いの時に伝わってきました。そして回を重ねるごとに、指摘する意見が深く多岐にわたっていくのを実感しました。力がついてきていると思います。授業をするのは大変ですが、やればやるほどおもしろくなると思えていたら嬉しいです。

教員名	木村博人／山田美絵子							
科目名	体育基礎実技Ⅱ《対象：大2初教A》				履修者数	40	回答者数	32
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	実験実習実技			必修／選択				

到達目標

1.小学校学習指導要領解説体育編の運動内容を体験し、実践する。(DP2・DP3・DP4・DP5) 2.体育基礎実技Ⅰの運動課題以外の発展的な内容に取り組み技能レベルを向上できる。(DP3・DP4) 3.各運動の指導方法、援助方法を学び、指導場面へ適用できる。(DP3・DP4) 4.安全な展開方法を学び、実践できる。(DP3・DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	37.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	3.3	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

体育の授業は、各運動スポーツ種目の技術練習(スキルトレーニング)に取り組むことが多くあると考えます。しかし、オリンピック選手を育てたいわけでもなく、運動の楽しさや爽快感、健康に対する意識、トレーニングに取り組めばからだや心に変化することへの気づきなどなどに自ら気づいてほしいと思っています。それらの気づきを子どもたちへの指導に活かしてくれることがこの授業の願いです。

教員名	木村博人／山田美絵子							
科目名	体育基礎実技Ⅱ《対象：大2初教B》				履修者数	40	回答者数	36
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	実験実習実技			必修／選択				

到達目標

1.小学校学習指導要領解説体育編の運動内容を体験し、実践する。(DP2・DP3・DP4・DP5) 2.体育基礎実技Ⅰの運動課題以外の発展的な内容に取り組み技能レベルを向上できる。(DP3・DP4) 3.各運動の指導方法、援助方法を学び、指導場面へ適用できる。(DP3・DP4) 4.安全な展開方法を学び、実践できる。(DP3・DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.4	実施形態(すべて対面)		36人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.7	D-9	担当教員に質問したか	66.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.2	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

体育の授業は、各運動スポーツ種目の技術練習(スキルトレーニング)に取り組むことが多くあると考えます。しかし、オリンピック選手を育てたいわけでもなく、運動の楽しさや爽快感、健康に対する意識、トレーニングに取り組めばからだや心に変化することへの気づきなどなどに自ら気づいてほしいと思っています。それらの気づきを子どもたちへの指導に活かしてくれることがこの授業の願いです。

教員名	二川正浩							
科目名	生徒・進路指導論≪対象:大2初教A≫				履修者数	44	回答者数	31
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

1. 教育課程における生徒指導の目的と位置づけを理解し、校務分掌上における各教員の果たす役割と求められる資質について説明することができる。(DP2・DP6) 2. 学級担任等が果たす基本的な生活習慣の育成や規範意識の醸成、そして自己指導能力の育成における役割の重要性を理解し、育成や醸成のための具体的な手法を例示することができる。(DP2・DP6・DP7) 3. 主な法令の内容を理解し、生徒指導上の個別の課題に対する解決の在り方を例示することができる。(DP2・DP4・DP7) 4. 教育課程における進路指導・キャリア教育の目的と位置づけを理解し、特別活動を要としたキャリア教育の内容と課題を説明することができる。(DP2・DP7) 5. 産業構造や進路を巡る環境の変化について理解し、自分自身のライフプランを作成することができる。(DP2・DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		31人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.8	D-9	担当教員に質問したか	9.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	1.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	2.9	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.4	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

予習や復習に関しては、点数の向上に向けて課題等の工夫をしていきたい。また理解については授業中に知る問時間を設けたりして改善を行ったが、理解を深めていけるように説明の仕方等の改善を図りたい。また、例年なくテストの結果が思わしくなかったため、来年度は小テストを行うなどして理解の向上を図りたい。教職への関心の差は見られるので、全員が関心をもって取り組める具体的な学校の中でも課題を取り上げるなどして、授業改善を図っていききたいと思う。

教員名	二川正浩								
科目名	生徒・進路指導論≪対象:大2初教B≫					履修者数	39	回答者数	33
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択					

到達目標

1. 教育課程における生徒指導の目的と位置づけを理解し、校務分掌上における各教員の果たす役割と求められる資質について説明することができる。(DP2・DP6) 2. 学級担任等が果たす基本的な生活習慣の育成や規範意識の醸成、そして自己指導能力の育成における役割の重要性を理解し、育成や醸成のための具体的な手法を例示することができる。(DP2・DP6・DP7) 3. 主な法令の内容を理解し、生徒指導上の個別の課題に対する解決の在り方を例示することができる。(DP2・DP4・DP7) 4. 教育課程における進路指導・キャリア教育の目的と位置づけを理解し、特別活動を要としたキャリア教育の内容と課題を説明することができる。(DP2・DP7) 5. 産業構造や進路を巡る環境の変化について理解し、自分自身のライフプランを作成することができる。(DP2・DP4)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.5	実施形態(すべて対面)		33人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.7	D-9	担当教員に質問したか	15.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	2.2	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.6	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

予習や復習に関しては、点数の向上に向けて課題等の工夫をしていきたい。また理解については授業中に知る問時間を設けたりして改善を行ったが、理解を深めていけるように説明の仕方等の改善を図りたい。また、テストの結果が例年と比べて思わしくなかったので、小テストなどこまめに行って、理解の向上を図りたい。全体的には落ち着いた雰囲気です。授業に取り組んでくれていたと思うが、教職への関心の差は見られるので、全員が関心をもって取り組める具体的な学校の中でも課題を取り上げるなどして、授業改善を図っていききたいと思う。

教員名	鈴木邦夫									
科目名	特別活動の指導法≪対象:大2初教A≫						履修者数	40	回答者数	28
曜日	月	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1) 平成29年度版学習指導要領を踏まえ、特別活動の意義や特質、教育課程における位置付け、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の目標や内容・活動等について具体的に説明できる。(DP3) (2) 学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の特質や目標・内容・活動等についての理解をもとに、指導案の作成の仕方や具体的な指導方法・評価方法等について実践的な指導力を付ける。(DP4) (3) 学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の特質や目標・内容・活動等についての理解をもとに、指導案の作成の仕方や具体的な指導方法・評価方法等についての調査やグループ活動に自分なりの考えをもって積極的に参加する。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		28人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	14.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

ほとんどの受講者が、意識が高まった、ためになった、特別活動に詳しくなれた、毎回楽しかったなど肯定的な評価でした。準備を努力した甲斐がありました。引き続き小学校の特別活動の意義やあり方、現実的な課題について伝え、理解を促すとともに、学級担任としてどう特別活動に臨むかを考える時間としていきます。グループ協議もみなさんの学びが多く何よりでした。引き続きグループワークを積極的に取り入れます。その際、誰もが安心して発表できるよう話合いの約束事はきちんと伝えたいと思います。提出物や課題についてはより明確に内容等示す努力をします。事前学習や復習にはもっと時間をかけられるような働きかけが必要と思いました。特別活動はその実際の活動がこのところずっと削減されています。しかし特別活動は安定した学級経営の鍵です。教員になると誰もが担当する特別活動なので、少しでも自信をもって臨めるような内容にしていきます。

教員名	鈴木邦夫									
科目名	特別活動の指導法≪対象:大2初教B≫						履修者数	39	回答者数	32
曜日	木	時限	1限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1) 平成29年度版学習指導要領を踏まえ、特別活動の意義や特質、教育課程における位置付け、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の目標や内容・活動等について具体的に説明できる。(DP3) (2) 学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の特質や目標・内容・活動等についての理解をもとに、指導案の作成の仕方や具体的な指導方法・評価方法等について実践的な指導力を付ける。(DP4) (3) 学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の特質や目標・内容・活動等についての理解をもとに、指導案の作成の仕方や具体的な指導方法・評価方法等についての調査やグループ活動に自分なりの考えをもって積極的に参加する。(DP7)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.8	実施形態(すべて対面)		32人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.6	D-9	担当教員に質問したか	12.5%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.4	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

ほとんどの受講者が、グループワーク等の際、発表に対する教師のコメントがよかった、やる気が出た。友達のを聞いて参考になった。実際の学校での様子の話がためになった。特別活動に詳しくなった。毎回楽しかったなどと肯定的な評価を得られました。準備を努力した甲斐がありました。事前学習や復習にはもっと時間をかけられるような働きかけが必要と思いました。特別活動は充実した学級経営の柱となります。引き続き小学校の特別活動の意義やあり方、現実的な課題について伝え、理解を促すとともに、学級担任としてどう特別活動に臨むかを考える時間としていきます。グループ協議もみなさんの学びが多く何よりでした。引き続きグループワークを積極的に取り入れます。その際、誰もが安心して発表できるよう話合いの約束事はきちんと伝え、クラス内の仲間づくりも応援するつもりです。提出物や課題についてはより明確に内容等示す努力をします。教員になると誰もが担当する特別活動なので、教育実習や教職に就いた後、現場で少しでも自信をもって臨めるような内容にしていきます。

教員名	西野真由美									
科目名	道徳教育法≪対象:大2初教A前≫						履修者数	21	回答者数	15
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1)教育課程上の道徳教育や「特別の教科 道徳」の位置づけを理解できる。[DP3] 2)「特別の教科 道徳」の教材の扱いや授業展開の方法などを理解したうえで、授業を計画することができ、指導することができる。[DP4, DP5] 3)他者と協同して課題に取り組むことができる。[DP6]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.4	実施形態(すべて対面)		15人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.4	D-9	担当教員に質問したか	6.7%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	3.9	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.7	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎回実施したグループワークやディスカッションに対する評価が高く、学生同士の意見交流から多くの学びが得られていたと思われます。予習や復習の課題を設定していなかったため、毎回の授業を振り返る機会が少なくなってしまったことは今年度の課題として受け止めています。改善案として、次年度は、毎回の授業の振り返りと次回の授業への見通しを持っていただくための課題を提示していくことを検討します。

教員名	西野真由美									
科目名	道徳教育法≪対象:大2初教A後≫						履修者数	19	回答者数	4
曜日	火	時限	3限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1)教育課程上の道徳教育や「特別の教科 道徳」の位置づけを理解できる。[DP3] 2)「特別の教科 道徳」の教材の扱いや授業展開の方法などを理解したうえで、授業を計画することができ、指導することができる。[DP4, DP5] 3)他者と協同して課題に取り組むことができる。[DP6]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.0	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		1人
A-2	復習をしたか	2.0	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	0.0%
B-3	わかりやすさ	3.5	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	4.0
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	4.0
B-5	課題	2.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	3.0
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	0.0%
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	100.0%
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	4.0

教員コメント

毎回実施したグループワークやディスカッションに対する評価が高く、学生同士の意見交流から多くの学びが得られていたと思われます。予習や復習の課題を設定していなかったため、毎回の授業を振り返る機会が少なくなってしまったことは今年度の課題として受け止めています。改善案として、次年度は、毎回の授業の振り返りと次回の授業への見通しを持っていただくための課題を提示していくことを検討します。

教員名	西野真由美							
科目名	道徳教育法≪対象:大2初教B前≫				履修者数	20	回答者数	16
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)	
授業形態	講義			必修／選択				

到達目標

1)教育課程上の道徳教育や「特別の教科 道徳」の位置づけを理解できる。[DP3] 2)「特別の教科 道徳」の教材の扱いや授業展開の方法などを理解したうえで、授業を計画することができ、指導することができる。[DP4, DP5] 3)他者と協同して課題に取り組むことができる。[DP6]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.1	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.3	D-9	担当教員に質問したか	50.0%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.3	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.5	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	1.5	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.8	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.6	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎回実施したグループワークやディスカッションに対する評価が高く、学生同士の意見交流から多くの学びが得られていたと思われます。予習や復習の課題を設定していなかったため、毎回の授業を振り返る機会が少なくなってしまったことは今年度の課題として受け止めています。改善案として、次年度は、毎回の授業の振り返りと次回の授業への見通しを持ていただくための課題を提示していくことを検討します。

教員名	西野真由美									
科目名	道徳教育法≪対象:大2初教B後≫						履修者数	19	回答者数	3
曜日	火	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

1)教育課程上の道徳教育や「特別の教科 道徳」の位置づけを理解できる。[DP3] 2)「特別の教科 道徳」の教材の扱いや授業展開の方法などを理解したうえで、授業を計画することができ、指導することができる。[DP4, DP5] 3)他者と協同して課題に取り組むことができる。[DP6]

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.0	実施形態(すべて対面)		3人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	1.3	D-9	担当教員に質問したか	33.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.7	D-10	学生の参加	4.0	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.3	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	2.0	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.7	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.3	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

毎回実施したグループワークやディスカッションから多くの学びが得られていたと思われます。予習や復習の課題を設定していなかったため、毎回の授業を振り返る機会が少なくなってしまうことは今年度の課題として受け止めています。改善案として、次年度は、毎回の授業の振り返りと次回の授業への見通しを持っていただくための課題を提示していくことを検討します。

教員名	結城孝雄									
科目名	幼児と表現A《対象:大2初教A》						履修者数	30	回答者数	27
曜日	金	時限	2限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

・幼児教育における表現活動の必要性を理解する。(DP3) ・幼児の表現の実態を知る。(DP3) ・幼児の表現を引き出す手法を身に付け、協働活動によって表現活動を提案できる。(DP4.5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.9	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.7	D-9	担当教員に質問したか	22.2%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	2.8	D-10	学生の参加	3.7	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.3	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

感想ありがとうございました。理論と実践を結びつけて、みなさんが実際に活動を組み立てることができるようになることを目指しました。

わかりにくかったとの感想も寄せられていますが、ぜひ質問して下さい。質問できる機会は十分にあったと思います、教員はみなさんがわかるまで説明しますので、今後もぜひ質問をして下さい。質問は、その人だけでなくその内容に関してみなさんの理解が一層進みます。

毎回出席人数とレスポンの数を確認していましたが、一度異なっていたことで、その理由を確認していたように記憶しています。また助手の先生にも確認していただいています。教室に向かっている途中でも、「代理レスポンス」をすると、お互いの信頼を裏切る容認できない行為と授業でも話しました。ですので、一度判明した以降も、出席人数とレスポンス数をカウントしますので、代理レスポンスはないと判断しています。

ポートフォリオの質が学びの質なのですね、ご自分に十分にインプットされたものは アウトプットも質の高いものになりその痕跡がポートフォリオとして残されます。ですので、しっかり学べたということは、ご自分が一番ご存じなのです。

教員名	結城孝雄								
科目名	幼児と表現A《対象:大2初教B》					履修者数	21	回答者数	17
曜日	金	時限	1限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

・幼児教育における表現活動の必要性を理解する。(DP3) ・幼児の表現の実態を知る。(DP3) ・幼児の表現を引き出す手法を身に付け、協働活動によって表現活動を提案できる。(DP4.5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	1.6	実施形態(すべて対面)		17人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	35.3%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.0	D-10	学生の参加	3.8	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.2	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.5	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.5	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

感想ありがとうございます。みなさんが楽しく学べたことは嬉しい限りです。わかりにくいことは、ぜひ質問して下さい、質問することは、ご自分だけでなく周りの人の理解を深めることができます。お互いに聞き合ってもいいです、学びを深めるためにもぜひ質問を！！

これから、みなさんは、仕掛ける方、ファシリテートする側になっていきます、そのための手元のネタを、方法を模擬体験されたかと思います。難しいと感じることは良いことです。ご自分にその準備ができていないことを自覚して、これから回数を経験することで 手順やコンテンツを身につけて、次第に難しくなくなる、または、より質の高い授業に向けて 難しいと感じることが成長なのです。

教員名	宮祐子								
科目名	幼児と表現B《対象:大2初教A》					履修者数	29	回答者数	27
曜日	水	時限	2限	開講学部	児童学部	開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択					

到達目標

1) 幼児の音楽表現を知り、幼児の目線で音や音楽を楽しむことができる。(DP2・DP3) 2) 幼児の音楽表現と、音楽教材の種類や音楽的構造などを理解することができる。(DP2・DP3) 3) 音楽的知識・技能を働かせて、幼児を対象とした歌のレパートリーを広げることができる。(DP4・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.7	実施形態(すべて対面)		27人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.2	D-9	担当教員に質問したか	29.6%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.1	D-10	学生の参加	3.2	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.4	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.4	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.4	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.4	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	宮祐子									
科目名	幼児と表現B《対象：大2初教B》						履修者数	18	回答者数	16
曜日	火	時限	4限	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	演習			必修／選択						

到達目標

1) 幼児の音楽表現を知り、幼児の目線で音や音楽を楽しむことができる。(DP2・DP3) 2) 幼児の音楽表現と、音楽教材の種類や音楽的構造などを理解することができる。(DP2・DP3) 3) 音楽的知識・技能を働かせて、幼児を対象とした歌のレパートリーを広げることができる。(DP4・DP5)

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.9	実施形態(すべて対面)		16人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.3	D-9	担当教員に質問したか	68.8%	F-15	担当教員に質問したか	-
B-3	わかりやすさ	3.6	D-10	学生の参加	3.6	F-16	学生の参加	-
B-4	興味への工夫	3.6	実施形態(すべてメディア)		0人	F-17	指示の明確さ	-
B-5	課題	3.9	E-11	指示の明確さ	-	F-18	学修時間	-
B-6	シラバスとの合致	3.6	E-12	学修時間	-	F-19	教員への発言機会	-
B-7	満足度	3.8	E-13	教員への発言機会	-	F-20	学生どうしの意見交換	-
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	-	F-21	学修の効果	-

教員コメント

教員名	鵜殿篤									
科目名	教育におけるICT活用≪対象:大2初教≫						履修者数	82	回答者数	22
曜日	その他	時限	その他	開講学部	児童学部		開講学科	初等教育学科(児童教育学科)		
授業形態	講義			必修／選択						

到達目標

(1)情報通信技術を教育の場面(授業・校務等)で活用する意義と理論を理解し、説明できる。(2)実際に情報通信技術を活用して、学習指導を推進し、作業を効率化することができる。(3)情報活用能力(情報モラルや生成AIの仕組みに対する理解を含む)を育成するための基礎的な指導ができる。

設問別平均点

※D-9、F-15は、選択肢A「担当教員に質問したか」の回答率、E-13・14、F-19・20は、選択肢A「あった。利用した。」の回答率を表示しています。

A-1	予習・事前準備	2.1	実施形態(すべて対面)		0人	実施形態(対面に一部メディア)		0人
A-2	復習をしたか	2.5	D-9	担当教員に質問したか	－	F-15	担当教員に質問したか	－
B-3	わかりやすさ	3.8	D-10	学生の参加	－	F-16	学生の参加	－
B-4	興味への工夫	3.9	実施形態(すべてメディア)		22人	F-17	指示の明確さ	－
B-5	課題	4.0	E-11	指示の明確さ	3.9	F-18	学修時間	－
B-6	シラバスとの合致	3.9	E-12	学修時間	3.4	F-19	教員への発言機会	－
B-7	満足度	3.9	E-13	教員への発言機会	18.2%	F-20	学生どうしの意見交換	－
C-8	達成度	3.6	E-14	学生どうしの意見交換	50.0%	F-21	学修の効果	－

教員コメント

新しい試みをいろいろしてみた授業ですが、おおむね好評のようでよかったです。さらに工夫を加えて洗練させていきます。